

6 汪兆銘再訪日と枢軸諸国の汪政権承認

587

昭和15年11月30日

阿部中国派遣大使より
松岡外務大臣宛(電報)

日華基本条約の成立を踏まえ速やかな訪日を

汪兆銘希望について

南京 11月30日後発

本省 11月30日夜着

第五七六號

特第一〇九號(興亞院經由)

國民政府ヨリ汪精衛ハ條約締結ヲ見タルヲ機會二十二月中
可成早目ニ國民政府主席ノ資格ヲ以テ楮民誼、周佛海ヲ帶
同シ赴日致度希望ナルニ付テハ豫メ日本側ノ都合ヲ承知致
度旨傳ヘラレ度赴日ノ際ノ交通機關等ニ付テハ適宜手配ア
リ度旨申出アリタルニ付先方ニ對スル應酬竝ニ準備ノ都合
モアルニ付宮中ノ御都合其ノ他何分ノ儀至急回電ヲ請フ

(欄外記入)

中止スルコトナレリ 十二、六日

588

昭和15年12月8日

阿部中国派遣大使より
松岡外務大臣宛(電報)

汪兆銘の訪日中止理由を楮民誼へ説明について

南京 12月8日後発

本省 12月8日夜着

第六〇四號(至急、極秘)

特第一一四號

汪主席渡日中止方ニ關シ吉野、山田兩課長ヨリ事情聴取ノ
上七日日高參事官ヨリ楮外交部長ニ對シ我方諸般ノ都合上
差當リ實行不可能ナルノミナラス共和國元首ノ公式訪問ハ
先例ナキ事ニモアリ我方トシテ種々研究ヲ要スル點アル次
第ヲ然ルヘク説明シ此ノ際渡日中止方申入レシメタル處楮
ハ事情ハ良ク諒承セルニ付汪主席ニ報告シ取止方取計フヘ
シト答ヘタルカ同時ニ右日本側ノ中止申出ハ時期ノ關係ヨ

リナサレタルモノニシテ主義上ノ問題ニハ非スト解スル旨ヲ附言セリ

本件將來ノ措置振ニ關スル當方ノ所見ハ前記兩官ニ開陳シアルニ付御聽取ノ上更ニ御考究ヲ得度シ

~~~~~

589 昭和15年12月24日 在南京日高大使館參事官より  
松岡外務大臣宛(電報)

中国における独国官民の日本および南京政府

に対する非友誼的な態度につき汪兆銘内話に

ついて

南京 12月24日後発  
本省 12月24日後着

第六六七號(極秘)

一、在支獨逸側ノ態度ニ關スル二十三日汪主席ノ内話要領左ノ通り

(一)最近獨逸參事官重慶ニ着任シ經濟協定ヲ商議シツツアリトノ情報アリ

(二)在支獨逸官民ノ對日汪態度ハ必スシモ好カラス例ヘハ  
(イ)「フィシヤー」參事官ハ最近自分ニ對シ日本ハ在支

經濟活動ヲ獨占セント欲シ獨逸商人ノ活動ヲ認メストテ種々實例ヲ舉ケ前軍事顧問「ファルケンハイン」カ  
白耳義ノ總督トシテ爲シツツアル所ト對比シタルニ付  
自分ヨリ右ハ戰爭行爲遂行ノ必要ヨリ出テタル一時的  
措置ナルヘシト説明セルモ承服セス彼等ノ考方ハ概シ  
テ重慶的ノ臭味アリ(ロ)又「フ」ハ昨年最初ニ面會セル  
時以來常ニ治外法權ヲ有スル各國ト同様ノ待遇ヲ與ヘ  
サレハ承認セスト言フカ如キ口吻ヲ漏シ(往電第六五  
六號參照)(ハ)「トランスオーシヤン」ノ如キモ其ノ報  
道振好意的ナラス現十一月二十日ノ報知所載武藤貞  
一ノ論說ノ如キハ極メテ汪政權ニ不利ナル様歪曲シテ  
報道セルカ如キ其ノ一例ナリ

二、右ニ對シ本官ヨリ獨逸モ佛白ニ於テハ物資獲得等ノ必要  
上嚴重ナル經濟統制ヲ行ヒ居ルコト「フィシヤー」自身  
「ファルケンハウゼン」ト白國皇帝トヲ比較シ「ファ  
カ國王ナリト語レル事實アルコト等ヲ指摘シ汪ノ所說ニ  
同感ヲ表シ治外法權問題ニ關シテハ往電第六五六號(ハ)  
要領ヲ述ヘ置ケルカ以上汪ノ所言ハ何レモ事實ニ合シ且  
本官等ト所見ヲ同シウスル所アルニ付特ニ報告ス

北京、上海へ轉電セリ

590 昭和15年12月28日 在中国本多大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

信任状捧呈式の終了報告

南京 12月28日後発  
本省 12月28日夜着

第六八〇號

本二十八日本使御信任状捧呈式ヲ無事終了セリ

北大ヨリ北支各館へ轉電アリタシ

在支各總領事、香港、滿ニ轉電セリ

591 昭和16年1月8日 在中国本多大使より  
松岡外務大臣宛

信任状捧呈式の状況報告

支大祕第七號 (接受日不明)

昭和十六年一月八日

在南京

特命全權大使 本多 熊太郎(印)

外務大臣 松岡 洋右殿

本多大使御信任状捧呈ニ關スル件

十二月二十八日本使南京ニ於テ國民政府主席汪兆銘ニ對シ御信任状ヲ捧呈シタル次第ハ不取敢電報シ置タル處右舉式ノ模様及之ニ關聯セル前後ノ模様左ノ通り報告ス

記

一、十二月二十六日本使上海着、行政院副院長周佛海汪行政院長代理トシテ、外交部駐滬辦事處長周珏徐外交部長代理トシテ夫々出迎ヲ受ケ

二、十二月二十七日午前十時飛行機ニテ上海出發同十一時二十五分南京飛行場著外交儀禮上ノ典禮局長蕭奇斌及外交部實際科長王纘祖ノ外日支ノ特別友好關係ニ鑑ミ褚民誼大使、徐良外交部長、周隆庠外交部次長等ノ出迎ヲ受ケ沿道日支關係機關ノ嚴重ナル警戒裡ニ鼓樓大使館内官邸ニ入ル

三、右到着當日二十七日午後四時外交部長徐良ヲ公式訪問シ著任ノ挨拶ヲ述ヘ同午後五時同部長ノ答訪ヲ受ケ  
四、同日前例ニ依リ着任挨拶ノ意味ニテ館員ヲシテ五院々長、副院長等ニ本使ノ名刺ヲ送達セシメタリ

五、御信任狀捧呈式當日即十二月二十八日午前十時四十五分  
國民政府派遣ノ接待員典禮局長蕭奇斌、參軍謝澤民少將  
ノ出迎ヲ受ケ同政府差廻シノ禮車(自動車、正禮車一臺、  
副禮車一臺、準副禮車一臺)ノ中本使ハ蕭典禮局長ト共  
二正禮車二同乗シ堀内公使以下隨員三十六名(別添第  
六號)<sup>(省略)</sup>ハ副禮車以下自動車十四臺二分乘(別添第八號)<sup>(省略)</sup>シ  
本使官邸ヲ出發國民政府ニ赴ケ

國民政府正門ニハ二個小隊ノ衛兵堵列シ本使一行ノ自動  
車通過ノ際ハ歡迎ノ樂ヲ奏シ捧銃ノ敬禮ヲ行ヒ、大禮堂  
前ニテ下車スルヤ同所ニ整列セル軍樂隊ハ國歌「君ケ  
代」ヲ奏ス本使以下隨員ハ典禮局長及參軍長ノ先導ニ依  
リ大禮堂休憩室ニ入り小憩ノ後定刻午前十一時典禮局長  
ノ先導ニ依リ隨員ト共ニ式場タル大禮堂ニ入ル

六、大禮堂ニハ國民政府主席汪兆銘「モーニング」ヲ着用シ  
場ノ正面ニ起立シ外交部長徐良其ノ右側ニ侍立シ參軍長  
唐麟、文官長徐蘇中以下文武官正面ヲ中心ニ左右ニ侍立  
シ本使ヲ迎ヘ本使ハ參入シテ主席ノ前ニ起立シ隨員ハ本  
使ノ後ニ横隊三列(別添第七號)<sup>(省略)</sup>ニ整列列席定マルヤ本使  
ハ別添第二號ノ口上書ヲ讀上ゲ清水書記官之ヲ華語ニ譯

ス(別添第三號)<sup>(省略)</sup>次テ本使ハ本使ニ對スル御信任狀ヲ主席  
ニ捧呈ス、主席恭シク之ヲ受ケ徐外交部長ニ手交シタル  
上別添第四號<sup>(省略)</sup>ノ答辭ヲ述ヘ外交部常務次長周隆庠之ヲ日  
本語ニ譯ス(別添第五號)

次テ主席本使ト握手シ先ツ

日本國天皇陛下ニ於カセラレテハ御健康ニ涉ラセラルル  
ヤト述べ本使ヨリ

聖躬御安泰ニ涉ラセラルル旨答ヘ一二簡單ナル會話ヲ交  
換シ本使ヨリ隨員ヲ紹介シ主席一々各官ト握手セリ次テ  
本使ヨリ暇ヲ告ケ十一時三十分式場ヨリ退出シ右ニテ滯  
リナク式ヲ終レリ

式場退出後大禮堂前階下ニテ主席、外交部長其他及本使  
隨員一同ノ紀念撮影アリ終リテ休憩室ニ入り外交部長以  
下ノ接待ニテ「シヤンパン」ノ杯ヲ舉ゲ

同十一時五〇分外交部長以下ノ見送裡、支那國歌ノ吹奏  
裡ニ大禮堂ヲ出發同十二時官邸ニ歸着ス

七、同日午後一時ヨリ汪主席主催本使及隨員招待ノ午餐會大  
禮堂ニ於テ開カレ支那側ハ前顯參列者ノ外各部々長之二  
參加セリ席上主席ヨリ

天皇陛下ノ御健康ヲ祝シ奉リ併セテ日本帝國ノ國運隆昌  
ヲ祈ル旨ヲ述ベテ乾杯シ次テ本使ヨリ主席ノ健康ヲ祝シ  
併セテ中華民國ノ國運隆昌ヲ祈ル旨ヲ述ベ乾杯セリ斯テ  
午後二時半頃宴ヲ終リ國民政府ヲ辭去官邸ニ歸還セリ  
此ノ日國民政府ニ至ル沿道ニハ特ニ巡警憲兵ヲ増派シ本  
使一行ノ通過ニ際シ敬禮ヲ爲サシメタリ

ハ、同日午後七時徐外交部長主催本使及隨員招待ノ公式晚餐  
會大禮堂ニ於テ催サレ支那側ハ各院長等之ニ參加セリ

九、二十九日午前本使ハ堀内公使以下隨員數名ヲ帶同、菊花  
臺表忠塔無名戰士墓及中山陵ヲ參拜ス中山陵ニ於テハ外  
交部ノ派シタル常務次長周隆庠、典禮局長蕭奇斌、交際  
科長王纘祖等ノ案内接待ヲ受ク

十、同日午後四時本使ハ公館ニ汪主席ヲ訪問、懇談シ午後七  
時首都飯店ニ支那側（主賓外交部長）ヲ招待披露宴ヲ催セ  
リ

以 上

別紙一號

良友

朕ハ貴我兩國ヲ聯結スル友好親睦ノ關係ヲ間斷ナク維持セ  
ンコトヲ希ヒ從三位勳一等本多熊太郎ヲ選ヒ委ヌルニ朕カ  
特命全權大使トシテ貴政府ノ下ニ駐劄シ朕ヲ代表スルノ重  
任ヲ以テシタリ熊太郎人ト爲リ忠誠職ヲ執ル勤勉ニシテ又  
才幹アリ且其ノ性格ノ儒秀ナル朕ノ久シク知悉スル所ニシ  
テ其ノ光榮アル使命ヲ遂行スルニ當リ全然朕ノ意ニ適ヒ又  
貴主席ノ殊遇信任ニ副ハンカ爲勵精盡力苟クモ缺漏ナカル  
ヘキハ朕ノ確信スル所ナリ因テ朕ハ熊太郎カ朕ノ名ヲ以テ  
貴主席ニ以聞スル所ノモノハ總テ貴主席ノ憑信ヲ得殊ニ朕  
カ貴主席ノ慶福ト貴國ノ隆昌トヲ祈ルノ誠意ヲ致シ朕カ深  
厚ニシテ恆久渝ラサル敬愛ノ衷情ヲ披陳スルニ際シテハ深  
ク其ノ言ヲ信セラレンコトヲ望ム

昭和十五年十二月十四日東京宮城ニ於テ

貴主席ノ良友

（御 名）

中華民國國民政府主席 閣下

別紙二號

本多大使口上書

主席閣下

大日本帝國

天皇陛下ハ今回本使ヲ中華民國駐劄特命全權大使ニ任シ賜  
ヒ本日茲ニ 天皇陛下ノ御親翰ヲ捧呈スルハ本使ノ最モ光  
榮トスル所ナリ

惟フニ貴我兩國ハ古來善隣トシテ輯睦ヲ敦フス、一時ノ變  
ニ遭フト雖之ヲ以テ兩國本然ノ關係ヲ害フト云フ可カラス、  
曩ニ兩國間基本關係ニ關スル條約ノ締結ヲ見、道義ニ基ク  
東亞新秩序ノ建設ニ巨歩ヲ進メ得タルハ洵ニ欣快ニ堪ヘサ  
ル所ナリ、我政府ハ兩國政府及國民間ノ理解ト同情ノ増進  
ニ依リ兩國力相倚リ相扶ケ以テ東亞ニ於ケル恆久的の平和ヲ  
確立センコトヲ冀念シテ已マス

本使茲ニ任ニ臨ムニ當リ此ノ目的ノ達成ニ最善ノ努力ヲ盡  
サンコトヲ期ス、幸ニ貴國政府ノ協力ニ依リ其ノ職責ヲ全  
フセンコトヲ希フ

茲ニ敬ミテ

貴主席ノ健康ヲ祝シ併セテ

貴國國運ノ隆昌ヲ祈ル

(了)

別紙五號

汪主席答詞(日譯)

大使閣下

貴大使ハ貴國 天皇陛下ヨリ中華民國駐劄特命全權大使ニ  
任命セラレ本日信任狀ヲ捧呈セラル本主席ハ之ヲ接受シ欣  
快ノ至ニ堪ヘス

貴大使ハ昔日外交官ノ資格ヲ以テ多年中國ニ在任セラレ兩  
國ノ情勢ヲ熟知セラル今次中華民國駐劄ノ大使ニ任セラレ  
タルハ最モ歡迎スル所ナリ貴我兩國ハ同文同種ニシテ就中  
文物制度ノ灌輸融和ハ兩國親善ノ精神ニ歴史の悠久性ヲ具  
有セシメ誠ニ貴大使ノ言ハルル如ク一時ノ事變ニ遭フト雖  
モ其ノ本來ノ關係ニ影響スルニ至ラサルナリ現ニ兩國ノ基  
本條約成立シ過去ノ睦誼ヲ恢復セルノミナス更ニ之ヲ増  
進スルコトトナレリ此レヨリ兩大民族間平等ノ立場ニ於テ  
相互ニ尊敬シ相互ニ提携シ政治上ニハ彼我獨立ト自由トヲ  
尊重シ經濟上ニハ互惠ヲ以テ基調トナシ同心協力以テ東亞  
新秩序ヲ建設シ共存共榮ノ基礎ヲ確立スヘク本主席ハ貴大  
使ト同様堅固ナル決意ヲ有ス

貴大使カ職務上必要トセラルル便宜ハ當ニ誠意ヲ以テ供與シ貴大使ニ於テ其ノ偉大ナル使命ヲ完成セラルル様協力ヲナスヘシ

玆ニ謹ミテ貴國 天皇陛下ノ御安泰ト貴國國運ノ隆昌トヲ祝シ奉リ併テ貴大使ノ御健勝ヲ祈ル

~~~~~

592 昭和16年1月23日 在伊国堀切(善兵衛)大使より
松岡外務大臣宛(電報)

南京政府承認問題に対する独伊の立場につき

伊側説明について

ローマ 1月23日後発

本省 1月24日夜着

第四七號(極秘)

往電第三九號ニ關シ(南京政府承認問題)

二十三日「プルナス」ハ安東ニ對シ本件ニ付「ム」「ヒ」會談ノ結果ヲ尙未タ御傳ヘシ得サルカ自分ノ印象ニテハ獨側ハ從來ノ主張ヲ堅持シ居リ伊側ハ從來ノ立場ヲ説明シテ承認ニ導クヘク努メタル次第ナリト語レルヲ以テ安東ハ獨側カ獨伊間ニ意見ノ不一致アルカ如キ印象ヲ與フルコトヲ

不可トスルノ理由ヨリ伊ノ承認ヲ延期セシメントスルハ獨ノ立場ヨリ觀テ素ヨリ了解シ得ル所ナルモ日本政府カ既ニ南京政府ヲ承認シ之ニ絶對支持ヲ與ヘテ東亞新秩序建設ノ一礎石トシツツアル現狀ヨリ解シテ之ニ同調スルハ同盟各國ノ個々ノ國家ノ利益ニ超越シテ三國大目的達成上重要意義アルコトヲ念頭ニ置カレタシト述ヘタル處「プ」ハ獨ハ承認カ蘇聯邦ニ與フル影響ヲモ考慮シ居レルカ伊ノ方針ハ素ヨリ承認ニアルヲ以テ今後モ之カ實現ニハ努力スヘシト云ヘリ

~~~~~

獨、蘇へ轉電セリ

593 昭和16年1月25日 在中国日高臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

東亞連盟運動に関する日本政府の閣議決定が  
中国における運動に与える影響を汪兆銘懸念  
について

付記 昭和十六年一月十四日

右閣議決定

南京 1月25日後発  
本省 1月25日夜着

第五三號(至急)

特第八號

往電第七號二關シ

二十一日汪主席二面會ノ節汪ハ率直ニ打明クヘシトテ東亞聯盟運動ニ關シ(阿部大使發客年十二月四日附機密合第六九號往信參照)日支兩國ノ遣方ニ緩急冷熱ノ差アルハ敢テ氣ニセサルモ其ノ間ニ喰違ヲ生シ誤解ヲ來スヲ惧レ先般近衛首相ニ自分ノ聲ヲ申シ送り最近返翰ニ接シ自分ノ意圖スル處カ其ノ意ニ反セサルヲ知り安心セルモ恰モ自分(汪)指導ノ下ニ全國的運動ノ形ヲ採ラントスルニ決シタル折柄十四日ノ閣議決定ノ發表アリ支那側ニ於テハ新聞報道ヲ見テ本運動參加ニ躊躇スル者ヲ生シ殊ニ國民黨以外ノ分子ニハ不參加ヲ唱フルモノ出テ自分トシテハ今更相當工合惡シキ立場ニ在リ彼等ニ對シテモ責任ヲ感シ又此ノ際斯ル運動ヲ進ムルコトハ故意ニ日本政府ノ意ニ反シテ行動スルヤノ誤解ナキヤヲ惧ルトテ運動ノ形式及名稱ニ付テモ種々苦心セル内情ヲ打明ケ差當リ思想運動ニ止メ名稱ハ東亞聯盟促進

中國協會トシ孫文ノ大亞細亞主義及日支條約、三(國?)共同宣言ノ主旨ニ則ルコトヲ明カニシテ「スタート」スル積ナリ廣東ニハ既ニ組織アリ南京ニハ中國同志會アリ近ク上海及武漢ニモ支部ヲ作ルコトトシ本協會ハ全國的ノ性質ノモノトスルコトトセリトテ甚タシク日本側ニ氣兼セル様子ヲ示シタルニ付本官ヨリ閣議決定ノ主旨ヲ可然敷衍シ安心ヲ與ヘ置ケリ

(付記)

(付箋) 興亞諸團體ノ指導理念統一ニ關スル件

昭和十六年一月十四日 閣議決定

一、大東亞新秩序建設ヲ目標トセル諸團體ノ指導理念ハ昭和十五年十一月三十日日滿華共同宣言ニテ闡明セル趣旨ニ依ラシムル如ク指導ス

肇國ノ精神ニ反シ皇國ノ國家主權ヲ晦冥ナラシムル處レアルカ如キ國家聯合理論ノ展開乃至之ニ基ク國際形態ノ樹立ヲ促進セントスル運動ハ之ヲ撲滅スル如ク指導ス  
二、帝國内ニ於ケル大東亞新秩序建設ニ關スル啓蒙的思想運動ハ大政翼贊會ヲシテ政府ト表裏一體ノ關係ニ於テ之ニ



當ラシム之カ爲本運動ノ關係諸團體ヲ適宜整理統合シ大政翼賛會ト連繫ヲ保持セシム

右態勢ノ確立ニ伴ヒ政府指導ノ下ニ大政翼賛會ヲシテ他ノ諸國ニ於ケル團體ニ對スル啓蒙運動ヲ展開セシム之レカ爲メ大政翼賛會内ノ此種關係機構ヲ適正ナラシムル如ク措置ス

## 備考

支那ニ於ケル東亞聯盟中國同志會ノ行フ運動ハ日滿華共同宣言ニテ闡明セル趣旨ニ反セサル限り之ヲ阻止スルコトナシ、但シ該同志會ト新民會トノ團體的統合ハ當分之ヲ避ケ北支ニ於ケル日滿華共同宣言ノ趣旨普及ハ新民會ヲシテ之ニ當ラシム

## (付箋)

第二項大政翼賛會ト連繫ヲ保持セシムルトハ外地ニ在リテハ當該地該當機關ヲ經由シテ行フモノトス

編注 本文書は、国立公文書館所蔵「公文別録」より採録。

594

昭和16年4月11日

在中国本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

南京政府の立場強化の観点から汪側より訪日の  
申入れある場合には受諾すべき旨意見具申

南京 4月11日後発

本省 4月11日夜着

第二二二號(極祕、館長符號扱)

往電第一六六號ニ關シ

本件ハ汪主席ニ於テ一應本使ノ意見ニ聽從暫ク見合セト申ス形ニ相成リ居ルモ右ハ本使ニ對スル禮讓ヲ重ンシテノコトニシテ渡日希望夫レ自體ノ斷念ニ非サルハ申迄モナキ所ニ有之若シ何等カノ機會ニ於テ先方ヨリ「曾テノ御意見モサルコト乍兎ニ角首相閣下ノ御意嚮ヲ伺ヒ吳レ度シ」トノ申出ニ接シタル時ハ本使トシテ之ヲ斷ハルヘキ筋カニ無之キノミナラス現下内外情勢ハ轉右ノ希望ニ熱ヲ加ヘシメツツアリト看取セラルル節モ多分ニ有之殊ニ國民政府支援ニ關スル日本側ノ熱意冷却ノ傾キアルヤノ疑念。カ最近國府部内ニスラ段々濃厚ヲ加ヘツツアルハ本使ノ見ル所ニテモ遺憾作ラ事實ニ有之旁以テ汪主席トシテハ速ニ此ノ種ノ疑霧

ヲ一掃シ國民政府ノ立場強化ヲ中外ニ昂揚スルノ要ヲ痛感スルト同時ニ内外ノ重要問題ニ關シ親シク閣下ノ高教ヲ仰キ又政府要部ノ諸公トモ隔意ナキ接洽ヲ遂ケントスルノ希望ニ燃エ居ルヘキハ想像ニ難カラサル所ニシテ或ハ近ク渡日希望ヲ更メテ申入レ來タルコトアルヤモ計リ難シト存ス其ノ場合我方トシテ之ヲ阻却スルコトハ當方面目下ノ政情ヨリ見テ好マシカラサル影響ヲ多分ニ招來スルノ惧レ無シトセス若シ夫レ宮中方面ノ關係ニ至ツテハ汪氏ノ渡日ハ主トシテ行政院長ノ資格ヲ以テ日本政府首腦ト接觸ノ爲ナリトノ建前ヲ取り(事實又其ノ通りナリ)單ニ一日位適當ノ方法形式ノ下ニ元首トシテノ御待遇ヲ賜ハルコトトスル等可然ク善處ノ途ナシトセサルヘク其邊ニ付テハ汪氏自身敢テ虛榮的期待ヲ持チ居ルヘシトハ思ハレ申サス何レニシテモ汪主席渡日ノ問題ハ昨年來段々ノ行懸リモ有之ノミナラス我方ニ於テ之ヲ迷惑カリ居ルカノ如キ感想ヲ與フルコトハ此ノ際殊ニ禁物ト愚考セラルルニ付未タ何等更メテノ申入ニ接シタル次第ニハ非サルモ此ノ場合御參考ノ一端迄謹ンテ所見ヲ申上ケ置ク

595

昭和16年4月17日

在中国本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

汪側より訪日希望申入れについて

南京 4月17日後発

本省 4月17日夜着

第二四四號(極秘、館長符號扱)

往電第二二二號ニ關シ

豫測ノ如ク汪<sup>(主)</sup>首席ヨリ主トシテ行政院長ノ資格ヲ以テ渡日ノ希望首相閣下ヘ傳達方懇囑ニ接シタリ委細今十七日空送ノ機密第一八一號拙信ニテ御承知願フ

596

昭和16年5月6日

在中国本多大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

今次訪日の目的は南京政府強化問題の協議に  
ある旨汪兆銘強調について

南京 5月6日後発

本省 5月6日夜着

第二九四號(極秘、館長符號扱)

五日夕汪主席ノ招宴(國府首腦連陪席)ニ於テ主席ヨリ食前

約一時間兩人丈ニテ懇談ノ希望アリ其ノ機會ニ貴電第一四三號ノ内容ヲ程良ク織込ミ何レ本使歸朝ノ上主席御迎ヘノ日取等決定スル事トナルヘシト述ヘ置キタリ左様御含ヲ請フ主席ノ談話中左ノ一節ハ頗ル深刻ナル含。蓄ヲ有スト認ムルニ付特ニ電報ス

凡ソ人ノ世ニ生クルヤ其ノ生クルニ足ル價值ナカルヘカラス國民政府又然リ國民政府ノ存在ニハ其ノ存在ヲ意義附ケル理由ナカルヘカラス自分ノ渡。日ハ即チ斯ル根本問題ヲ檢討センカ爲ニシテ國民政府ノ現狀ハ正ニ其ノ檢討ヲ必要トスルノ時期ニ達セリト信シ居レリ

支那<sup>(2)</sup>ノ現狀ヲ見ルニ(一)米國ノ支援スル重慶政權ト(二)蘇聯ノ支持スル共產黨ト及(三)日本ト不可分ノ關係ニ在ル我國民政府ト天下三分ノ形勢ニ在リ而シテ日本ノ支那ニ於ケルヤ米國及蘇聯ニ比シ強力ナル地位ヲ占メ居ルニ拘ハラス不可分ノ關係ニ在ル國民政府ハ他ノ二者ニ比シ遙ニ劣弱ナル情勢ニ在リ共產黨スラ三十萬ノ軍ヲ擁シ重慶ニ至テハ大ナル兵力ヲ有スル上ニ米國ヨリ巨額ノ借款ヲ得テ其ノ財政の基礎我國民政府ヲ凌キテ餘リアリ國民政府ハ共產黨程ノ武力スラナク蔣介石程ノ財力モ之ヲ有セス殊ニ民心ノ歸向ヲ察ス

ルニ米國ト蘇聯ハ深ク支那國民ノ信賴ヲ受ケ居ルニ日本ハ遺憾ヲ今尙民心ヲ把握シ居ラス此ノ點ヨリ見ルモ吾人ノ和平區域内ハ最モ劣勢ナリト言ハサルヘカラス斯カル國民政府ヲシテ果シテ他ノ二者ノ價值ヲ得セシムルニ足ルヤ否ヤ此ニ於テカ深刻ニ國民政府ノ存在價值ヲ檢討スルノ要アリ國民政府ニシテ眞ニ其ノ力ヲ增強シ何等顧慮スル所ナク前進シ得ル態勢ヲ整フルヲ得ハ此處ニ始メテ其ノ存在ノ意義アリト言フニ足ルヘシ云々

597

昭和16年5月9日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

南京政府の強化に関し現地陸海軍と意見一致の  
試案を作成した旨帰朝予定の本多大使より報告

付記 昭和十六年六月十一日、興亜院連絡委員会諒

解

「本多大使ニ對スル回答案」

上海 5月9日前発  
本省 5月9日前着

第七六八號(至急、極秘、外信)

本多大使ヨリ

(一) 豫定ノ通り本九日龍田丸ニテ出發ス書類整理ノ爲ニ、三日京都ニ滞在十四、五日頃入京ノ積リナリ

(二) 國民政府カ今ヤ殆ト行キ詰リノ窮境ニ在リ此ノ際急速ニ活ヲ入レテ遣ルノ要アリトノ點ニ付テハ現地陸海軍側モ期セシテ本使ト所見ヲ一ニシ此ノ見地ヨリ我方ヨリ施策ヲ必要トスル諸點ニ付テハ過日來大使館側トノ間ニ共同研究ノ結果幸ニシテ現地三機關一致ノ試案ヲ得タリ右ハ現下ノ狀勢對策ニ關スル陸軍大臣宛板垣總參謀長內狀(發送前本使モ内覽濟)ト共二八日空路上京ノ土橋參謀副長携行ノ筈ナリ支那方面艦隊司令長官トハ金澤武官ヲ以テ終始緊密ノ聯絡ヲ執リ居タルカ七日同長官ヨリ招待ノ晚餐會ニ於テ食前一時間參謀長モ列席懇談ヲ遂ケタルカ同長官ニ於テ全然本使ト同感ナリトテ本使努力ノ成功ヲ祈ル旨ノ挨拶アリタリ

(三) 尙華中連絡部井上次長ヲ招キ同官内含ミ迄前記試案ヲ内示シ置キタリ東亞局長宛空送ス

南大へ轉電セリ

(付記)

本多大使ニ對スル回答案

昭和一六、六、一一

興亞院連絡委員會諒解

國民政府ノ育成強化ニ關スル我政府ノ方針ハ何等變更ナク中央各廳ニ於テモ銳意之カ研究具體化ニ努力シ居ル次第ナリ

五月十四日貴大使携行ノ「一般方針」ニ記載セラレ居ル諸案件ニ付以下政府ノ見解ヲ列述スルコトスヘシ

第一、一般的事項

一、第三國就中我カ樞軸ノ盟邦タル獨伊等ノ國民政府承認ニ關シテハ成ルベク速ニ之カ實現ヲ計リ度キ考ヘナリ  
二、對重慶和平工作ヲ實施スル場合ニアリテハ適時國民政府ト連絡シ以テ十分ナル協調ヲ圖ルヘシ

三、國民政府ノ實質的強化ニ關シテハ作戰上直接ノ必要及帝國綜合國力ノ強化ニ背馳セサル如ク各般ノ問題ニ付極力之カ速ナル具體化ヲ圖ルヘシ

第三、具體的諸問題

一、物資搬出入ニ關スル件

物資ノ敵地流出防止ニ對シテハ對重慶經濟戰ノ見地ヨリ日支協力シテ益々之カ合理的強化ヲ圖ルト共ニ占領地内ニ於ケル物資流通ニ對スル現行制限ニ關シテ合理的の調整ヲ加ヘツツアリ

而シテ軍票ノ價值維持方策ニ關シテハ中央ニ於テモ積極の合理化ニ努メツツアリ

### ニ、普通敵産又ハ我方管理ノ家屋等ニ對スル件

普通敵産及不在所有者ノ爲管理中ノモノニ付テハ逐次支那側ニ返還シツツアリ

### 三、合辦會社經營ニ關スル件

軍事上及國防上特ニ重要ナルモノ以外ニ付テハ調整ニ異存ナキヲ以テ現地各機關トモ協議ノ上具申セラレ度シ

### 四、治外法權ニ關聯スル課稅經濟統制等ノ暫定的調整

治外法權ノ原則トモ關聯スルヲ以テ慎重ニ取扱ヒ度ク支那側ノ課稅ヲ正式承認スルコトハ未ダ其時期ニアラズ

經濟統制ニ關シテモ其ノ合理的且適當ナルモノニ付テハ我方行政權ノ發動トシテ之ヲ實施スル等ノ方法ニ依

リ日支協力ノ實效ヲ擧クル如ク考慮中ナリ

國民政府ノ財政強化方策ニ就テハ別途ニ考慮中ナリ

五、國民政府ト其ノ治下ノ諸機關トノ關係調整ニ關スル事項

日支新條約ノ精神及規定ニ準據シ各地域ニ對スル國民政府ノ權威ヲ浸透セシムルカ如ク調整ヲ圖リツツアリ

### 六、政治ニ關スル主權尊重原則ノ件

廣ク人材ヲ求ムル意味ニ於テ各級地方政府ニ對スル國民政府ノ人事權ノ發動ヲ不必要ニ阻碍スルカ如キ意圖ナキモ治安トモ關聯アルヲ以テ自發的ニ日本側ニ連絡セシムル如ク内面指導スルノ要アリ

### 七、國民政府ノ財政強化

治安確立、稅制整備、統治地區内ノ經濟振興ニ依ル民力涵養等ニ依リ國民政府ノ財政の基礎ヲ鞏固ナラシムル如ク此上トモ協力スヘシ

### 備考

以上諸問題中現地ニ於テ處理シ得ルモノハ現地各機關ト連絡ノ上處置シ、中央ノ指示ヲ待ツヘキ事項ニ就テハ具體案ヲ中央ニ具申スルモノトス

598

昭和16年6月5日  
在中国日高臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

汪訪日に関する現地作成の宣伝指導要綱について

別電 昭和十六年六月五日発在中国日高臨時代理大

使より松岡外務大臣宛第三六二号

右要綱

南京 6月5日前発  
本省 6月5日前着

第三六一號(大至急、館長符號扱)

汪主席渡日ニ關スル宣傳指導要綱別電第三六二號ノ通り當地三機關ニ於テ一致ヲ見支那側ニテモ林宣傳部長ハ大體結構ナリト申シ居ルニ付本要綱ニ基キ當方面ヲ指導シ差支ナキヤ折返シ御回電ヲ請フ  
上海ヘ轉電セリ

(別電)

南京 6月5日後発  
本省 6月5日夜着

第三六二號(大至急、館長符號扱)

一、方針<sup>(1)</sup>

主席ノ訪日ニ關スル宣傳ハ日本ノ對支政策カ確乎不動ニシテ日華兩國ノ友好關係益々強固ヲ加ヘツツアルコトヲ認識セシムルト共ニ國府基礎ノ強化具體策カ一層活潑ニ展開セラレ兩國ノ緊密ナル結合ニ依リ世界ノ新情勢ニ對應シツツ事變處理ノ段階ニ一大前進ヲ見ルモノナルコトヲ中外ニ宣明セシムル様指導スルモノトス

二、要領

(イ)強調要旨

一、主席訪日ノ目的ハ日華兩國間ノ親善關係ヲ深メ豫テ兩國間ノ重要問題ニ關シ日本政府ノ最高首腦部ト意見ノ交換ヲ行フコトニアルコト  
二、日華兩國ノ基本關係ヲ律スル客年十一月三十日締結ノ日華新條約竝ニ日滿華共同宣言ハ確乎不動ニシテ右精神ハ新情勢ニ應シ益々發揚セラルヘキコト  
三、國民政府ノ理想ハ日本側ノ積極的協力ニ依リ着々強化セラルヘク他方重慶側ノ窮迫化ト相俟ツテ國民政府ノ和平反共建國ノ理念ニ對スル共鳴者益々増加シ延イテ重慶ノ解體ヲ促進スヘキ氣運ニアルコト

四、日華兩國政府ノ提携ハ今後愈々強化ヲ加ヘ既定方針ニ  
依ル東亞新秩序ノ實現ニ拍車ヲ掛クルニ至ルヘキコト  
五、調整事項ノ處理ハ日華新條約ノ趣旨ニ基キ逐次實施セ  
ラルヘク他方帝國ノ要求ハ國民政府ノ全幅の協力ニ依  
リ圓滿ナル進展ヲ期スヘキコト

(ロ) 注意事項

一、國民政府カ傀儡政府タル如キ印象ヲ與ヘサルコト  
二、近衛聲明乃至條約ノ再確認ナル用語ヲ避ケ訪日ニ建設  
的意義ヲ持タシムルコト

三、滯京中ノ數日ハ元首トシテノ資格ナルニ付用語ヲ注意  
スルコト

四、事前ニ各關係者外ニ洩ラサル様注意スルコト

三、實施要項

(イ) 治安ノ關係上事前報道ヲ絕對禁スルモ(別紙御参照)概  
ネ左ノ事項ヲ準備ス

一、中華映畫ヲシテ主席訪日記録映畫ヲ撮映セシムル爲  
所要ノ準備ヲ爲サシム

二、隨行ノ新聞記者ヲ選定シ必要ナル指示ヲ與フ

三、主席ノ渡日ニ關スル各般ノ材料ヲ蒐集シ且ツ之ヲ新

聞記者ニ供給ス

四、出發時ニ於ケル記者及寫眞班ノ入場手續ヲ打合ハス

(歸任ノ際モ同様)

(ロ) 出發後歸任迄ハ左ノ如ク措置ス

一、漢字紙及邦字紙ヲシテ隨時消息及寫眞ヲ詳細且ツ  
大々的ニ掲載セシムル外各種ノ社説短評等ヲモ隨時  
掲載セシム

二、汪院長ノ日華外人記者團會見ヲ行フ

三、林部長ノ紀行文ヲ航空便ニテ送付セシメ之ヲ漢文字

ニ掲載セシム

四、爲シ得レハ近衛首相、汪院長又松岡外相、(一字アキ)部長等  
ノ對日對支放送ヲ實施ス

五、本邦在住ノ華僑代表ニ對シテモ會見ノ上談話ヲ行フ

(ハ) 歸任後ハ左ノ事項ヲ實施ス

一、出來得レハ主席ヨリ歸寧後直ニ聲明書又ハ談話ヲ發  
表ス

二、隨員一同モ感想文又ハ紀行文ヲ發表ス

三、訪日記録映畫ヲ直ニ南京ニ送付ノ上封切セシメ各地  
ニ之ヲ配給セシム

？  
實施ニ關シ日華兩國ノ分擔事項ハ双方擔當者ニ於テ之ヲ決定ス

上海へ轉電セリ

599  
昭和16年6月11日

興亜院連絡委員會諒解の「汪精衛氏ニ對スル  
應對要領」

汪精衛氏ニ對スル應對要領

（昭和十六、六、一一・興亜院連絡委員會諒解  
昭和十六、六、二三・興亜院會議打合案）

一般要領

汪精衛氏ノ訪日ハ日本側ノ眞意ヲ打診セントスル相當眞劍且機微ナル企圖アルヤニ判斷セラルニ付キテハ此ノ際昨秋ノ廟議決定ニ準據シ成シ得ル限り具體的ニ其ノ要望ニ對フルト共ニ我方ヨリ要望スヘキ事項ハ之ヲ卒直簡明ニ提示シ時局處理ニ關シ帝國ノ意圖スル處ヲ十分納得セシムルモノトス

之カ爲考慮セラルル應對資料別紙一ノ如ク國民政府側ニ要

望スヘキ事項ノ骨子別紙二ノ如シ

別紙一

○國民政府側ニ對スル應對資料

第一、一般的事項

國民政府ノ育成強化ニ關スル帝國既定ノ方針ハ何等變更ナシ

特ニ最近ニ於ケル國際情勢ノ激變ハ益々國民政府ノ迅速ナル發育強化ヲ必要トシ帝國ハ朝野ヲ舉ケテ國民政府ノ發展ヲ期待シアリ

然レ共世界情勢ハ急迫シ帝國トシテハ一面重慶政權ノ屈服ヲ圖ルト共ニ他面帝國綜合國力殊ニ彈撥性アル國防力ノ確保増強ニ努メツアル次第ナルヲ以テ國民政府トシテモ之カ打開ノ責任ヲ分擔スルノ覺悟ヲ以テ我帝國ノ本企圖ニ協力スルノ要アリ

尙帝國政府ノ意圖シツツアル處左ノ如シ

一、第三國就中我カ樞軸ノ盟邦タル獨伊等ノ國民政府承認ニ關シテハ成ルベク速ニ之カ實現ヲ圖リ度キ考ナリ

二、對重慶和平工作ヲ實施スル場合ニアリテハ適時國民政



府ト連絡シ以テ十分ナル協調ヲ圖ル如クスヘシ

三、國民政府ノ實質的強化ニ關シテハ作戰上直接ノ必要及帝國綜合國力ノ強化ニ背馳セサル如ク各般ノ問題ニ付極力之カ速ナル具體化ヲ圖ルヘシ

四、貴國ノ東亞聯盟運動ニ關シテハ日滿華共同宣言ノ趣旨ニ副フ如ク其健全ナル發展ヲ期待シアリ(昭和二六、二四閣議決定參照)

日本ニ於ケル興亞國民運動ハ大政翼贊會ヲシテ行ハシメツツアルモ未タ貴國ノ運動團體ト直接連絡スルノ域ニ達シアラズ

## 第二、具體的諸問題

政府トシテハ左記方針ニテ現地機關トモ密ニ連絡シ之カ具體化ニ努メツツアリ尙詳細ハ本多大使ヨリ聴取アリ度

一、物資搬出入ニ關スル件  
物資ノ敵地流出防止ニ對シテハ對重慶經濟戰ノ見地ヨリ日支協力シテ益々之カ合理的強化ヲ圖ルト共ニ占領地内ニ於ケル物資流通ニ對スル現行制限ニ關シテハ合理的調整ヲ加ヘツツアリ

二、普通敵產又ハ我方管理ノ家屋等ニ對スル件

普通敵產及不在所有者ノ爲管理中ノモノニ付テハ逐次返還シツツアリ

三、合辦會社經營ニ關スル件  
軍事上及國防上特ニ重要ナルモノ以外ニ付テハ調整ニ異存ナキヲ以テ現地日本側機關ト協議ノ上具體的申出ヲ望ム次第ナリ

四、治外法權ニ關聯スル課稅、經濟統制等ノ暫定的調整  
治外法權ノ原則トモ關連スルヲ以テ慎重ニ研究致度シ、經濟統制ニ關シテモ其ノ合理的且適當ナルモノニ付テハ日支協力ノ實效ヲ舉クル如ク顧慮シアリ

國民政府ノ財政強化方策ニ就テハ別途ニ考慮シアリ

五、國民政府ノ財政強化  
治安確立、稅制整備、統治地區内ノ經濟振興ニ依ル民力涵養等ニ依リ國民政府ノ財政的基礎ヲ鞏固ナラシムル如ク此上トモ協力スヘシ

六、國民政府ト其ノ治下ノ諸機關トノ關係調整ニ關スル事項

日支新條約ノ精神及規定ニ準據シ各地域ニ對スル國民政府ノ權威ヲ浸透セシムルカ如ク調整ヲ圖リツツアリ

七、政治ニ關スル主權尊重原則ノ件

廣ク人材ヲ求ムル意味ニ於テ各級地方政府ニ對スル國民政府ノ人事權ノ發動ヲ不必要ニ阻碍スルカ如キ意圖ナキモ治安トモ關聯アルヲ以テ自發的二日本側ニ連絡セシムル如クセラレ度

別紙二

○國民政府側ニ對シ要望スヘキ事項

第一、汪精衛氏以下ニ積極的二要望シ又ハ了解セシムヘキ事項

一、帝國政府ノ國民政府支援強化ニ關スル方針ハ確乎トシテ今日モ微動ダニシアラス、然レトモ帝國ハ目下對重慶戰爭遂行中ナルト他面緊迫セル國際狀勢ニ對處センカ爲綜合國力ノ彈撥性保持ニ努力シアルヲ以テ日支條約ノ調整等直ニ國民政府ノ要望ヲ全面的ニ容ルルコト能ハサルモノアルモ積極的二爲シ得ル限りノ調整ヲ企圖シアルニ付徒ニ帝國ノ國民政府支援ノ熱意冷却セリト誤解シ或ハ前途ヲ危懼スルカ如キコトナク我方施策ニ積極的二協力セラレ度

二、帝國ハ目下武力的二又經濟的二重慶側ニ強壓ヲ加ヘ以

テ其屈服ヲ企圖シアルハ既ニ承知セラルル所ニシテ全面的和平ノ爲ニハ本施策ヲ以テ根本方策ト定メアリ

國民政府ニ於テモ帝國ノ正式承認ヲ機トシ其性格變化セルコトヲ自覺シ重慶ト對立抗爭ノ性格ニ於テ密ニ我企圖ニ協力セラレ度ク中國側ノ自主的政治活動ハ固ヨリ希望スル所ナルモ其施政ハ密ニ本主旨ニ吻合スル如ク指導セラレンコトヲ希望ス

第二、機ヲ見テ汪精衛氏以下ニ納得セシムヘキ事項

本件ハ積極的二云フヲ要セサルモ先方トノ應對中要スレハ機ヲ見テ應酬シ其反省ヲ求ムヘキモノトシ參考迄ニ附記スルモノナリ

一、中國側ノ自主的活動範圍ノ擴大ハ望ム處ナルモ中國側ノ現況ハ帝國ノ戰爭遂行上ノ要求ニ密ニ順應シ得サルモノ多キヲ以テ當分ノ間帝國側ノ指導ヲ必要トスル實情ナルコトヲ認識スルノ要アリ

1、日本ノ軍需及物動物資ノ調辨ヲ支那側ニ一任サレ度要求……本年初中支米買付ノ如キ支那側ハ遅ク時期ヲ失ス

2、物資搬出入取締規定ノ緩和ノ要求……支那側ニ爲サシムルモ日本ノ經濟戰ノ要求ニ順應シ得ス

3、合辦會社調整ノ要求……バス會社委讓ノ如キ日本側ハ要求ニ應シ度キモ事實ハ支那側財力上經營困難ナル點アリ

三、臨時及維新兩政府等ノ辨シタル事項ニ就テ動モスレハ之ヲ否認セントシ或ハ之カ飛躍の調整ヲ圖ラントスルカ如キ傾向アルハ遺憾ニシテ却テ調整ノ具現ヲ困難ナラシムルモノナリ

1、民國二十六年十一月十九日以前ノ國民政府諸法令適用ヲ飛躍的ニ強行セントスルモノアリ

2、特別市ノ件……特別市條例ノ變更ヲ加ヘントセルカ如キ例アリ

3、礦產稅賦課ノ要求……華中鐵礦、淮南炭坑ニ課稅ヲ要求シ來レルモ維新政府ノ法令ニ抵觸シアリ

4、法院ノ件……華北ノ法院モ直ニ南京司法行政院ニ直轄セシメントス

5、合辦會社ノ件……評價當初ノ經緯ヲ考慮スルコトナク出資比率評價等ノ變更ヲ行ハンコトヲ主張ス

6、維新學院經費未拂……維新政府時政府補助セシモ國民政府ハ再三要求シ未タ支給セス

三、主權回復ノ方面ノミヲ以テ國民政府強化ノ手段ト見做シ帝國ト提携シテ東亞新秩序ヲ建設セントスルノ熱意ヲ缺クニ至ル如キコトナキ様充分注意アリ度

1、華北、蒙疆地域ニ對スル國民政府ノ政治力ヲ急速ニ浸透セシメントス(法院直轄ノ例、華北政務委員會條例停頓ノ例)

2、河南省、徐海道等ヲ直ニ國民政府ニ移管セントス

3、武漢地區ノ人事課稅ニ關スル要求

4、廈門市政府接收ノ要求

5、日本人ニ對スル課稅ヲ當然ノ權利トシ要求(酒稅、飲料水等)

6、儲備銀行券ヲ徐海道ニ流通セシメントセル例(申合セニ反シ)

四、政府機關ノ無意味ナル形式の整備ニ熱中スルコトナク漸ヲ遂ヒ行政力ノ浸透強化ヲ圖リ以テ經費ノ節約ニ留意スル要アリ

1、現政府ノ組織カ既ニ國民黨收容ヲ主トセルカ如キ

感アリ

2、京滬、滬杭甬鐵路管理局設置ノ要求……鐵道部ノ他ニ此ノ管理局ヲ設クルモ仕事ナク人件費ヲ増スノミナリ

3、上海ニハ政府ノ各種辦事處設置セラレアルモ單ニ形式的ノ存在ニ墮シアルモノアラサルヤ

五、日支基本條約ノ具體的調整ハ日支相互ニ本條約及諸取極ノ精神ヲ十分ニ理解スルコトニ依リ圓滿ナル遂行ヲ期スヘキヲ以テ國民政府ニ於テモ官吏ノ指導上十分配慮ヲ望ム

1、法院ノ件……河南省ノ法院、華北ノ法院ヲ直ニ南京司法行政院ニ直轄セシメントスル精神上面白カラサルモノアリ

2、教育關係……教科書ヲ維新政府時代ヨリ日本側ト研究準備セルモノヲ使用セス故ラニ事變前ノモノヲ使用セルカ如キ例アリ、又學校ニ就テモ教育ノ獨立ト稱シ日本ノ援助ヲ敬遠セントス

3、其他下級官吏ノ言動ニ條約ノ精神ヲ了得シアルヤ否ヤヲ疑ハシムルモノ少カラス

600

昭和16年6月13日

松岡外務大臣より  
在英国重光大使、在米國野村大使他宛  
(電報)

# 汪訪日に関するわが方宣伝方針について

別電

昭和十六年六月十三日發松岡外務大臣ヨリ在

英国重光大使、在米國野村大使他宛合第一二

四九号

汪訪日に関する發表内容

本省 6月13日後8時15分發

合第一二五一號

汪主席來朝ニ關シ十四日午後一時(東南時間)情報局ヨリ別電合第一二四九號通り發表豫定ノ處帝國政府ニ於テハ今次汪主席ノ來朝ヲ機トシ日本ノ對支政策力確乎不動ニシテ日華兩國ノ友好關係益々強固ヲ加ヘツツアルコト兩國ノ緊密ナル結合ニ依リ世界新情勢ニ對應シツツ事變處理ノ段階ニ一大前進ヲ見ルモノナルコトヲ宣明シ國民政府ノ理想ハ日本側ノ積極的協力ニ依リ着々強化セラルヘク他方重慶側ノ窮迫化ト相俟ツテ和平反共建國ノ理念ニ對スル共鳴者益々増加シ延イテ重慶ノ解體ヲ促進スヘキ機運ニアルコト等ヲ

適宜宣傳致度考ナリ御參考迄  
米ヨリ本官管下各領事ニ轉電アリ度シ

(別電)

本省 6月13日後8時20分發

合第一二四九號

中華民國國民政府主席、行政院院長汪精衛閣下ハ新中央政府成立以來本邦各方面ヨリ寄せラレタル好意ニ答フルト共ニ日華兩國間ノ協力ニ關シ我方要路ト懇談ノ爲六月十四日上海發八幡丸ニテ訪日ノ途ニ就カレタルカ一行ハ十六日神戸ニ上陸、十七日朝東京驛着ノ豫定ニシテ汪精衛閣下ハ國民政府主席トシテ十八日宮城ニ參入、十九日以降行政院院長ノ資格ニ於總理、外務、陸軍、海軍、大藏等ノ各大臣ト會談ノ豫定ナリ

尙一行ハ汪院長ノ外行政院副院長兼財政部部長周佛海氏、外交部部長徐良氏、宣傳部部長林柏生氏等十數名ナリ

601 昭和16年6月17日

在独国大島(造)大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

南京政府の承認につき独国政府に対し正式申  
入れ方請訓

ベルリン 6月17日後發  
本省 6月18日前着

第六九九號(至急、館長符號扱)

貴電第五一四號ニ關シ(對汪應酬振ノ件)

獨逸ハ我要望ニ應シ汪政權ヲ承認セラルル用意アリヤト尋ネタル處「リ」ハ本件ニ付テハ既ニ二月末貴大使ニ御答ヘシタル通り自分トシテハ日本ノ御希望アルニ於テハ勿論之ヲ承認スル考ヘナリ(往電第一五九號參照)只今貴大使ノ御申出ハ日本政府ノ公式ノ提議ト心得ヘテ宜敷ヤ若シ然ラハ本件ニ關シテハ未タ「ヒ」總統ニ話居ラサルヲ以テ至急總統ノ決裁ヲ受クルコトトスヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ更ニ帝國政府ニ確メタル上確答スヘシト答ヘタリ  
往電第二〇九號ヲ以テ卑見ヲ稟申セル如ク何時迄モ此ノ問題ヲ不確實ノ儘放棄スルコトハ帝國ノ權威ニ關スヘク公式ニ汪政權ヲ承認<sup>アヤ</sup>ヲ獨逸政府ニ提議セラルルヤ若シ然ラストセハ此ノ際獨逸政府ニ對シ承認ヲ求メサル理由ヲ通告スルヲ儀禮上至當ト考フ速ニ我態度御決定ノ上回訓ヲ請フ

602

昭和16年6月21日 興亜院會議申合

「國民政府ニ對スル借款供與方ニ關スル件」

國民政府ニ對スル借款供與方ニ關スル件

昭和十六年六月二十一日

興 亞 院 會 議 申 合

一、汪兆銘氏來朝中國國民政府ニ對スル借款供與方ヲ申出テタルトキハ主トシテ其ノ重慶政府竝ニ第三國ニ與フル政治的效果ヲ意圖シ左記要綱ニ則ル借款ノ供與方ヲ應諾スルモノトス

二、借款要綱

- (一) 借款ハ「クレヂツト」トシ金額ノ限度ハ之ヲ三億圓トスルモノトス
- (二) 借款ノ實行ハ現物ノ供與ニ依ルヲ原則トスルモ資金ニ付支那側ヨリ申出アルトキハ其ノ内容ヲ聽取シタル上出來ルタケ考慮スルモノトス
- (三) 供與スヘキ現物ノ内容ニ付テハ支那側ノ申出ヲ聽取シタル上我方ノ供與能力ヲ勘案シテ之ヲ決定スルモノトス

(四) 其ノ他ノ條件及借款ノ當事者竝ニ本借款ノ實行ニ關聯シ必要トスル諸般ノ措置ニ付テハ國民政府側トモ協議ノ上之ヲ決定スルモノトス

「附屬文書」

對國民政府三億圓借款供與方ニ關スル件

對國民政府三億圓借款供與方ニ關シテハ左記ノ諸點ニ付政府全體トシテ充分ナル決意ヲ爲シ置クノ要アリ  
尙借款實行ノ具體的細目ニ付テハ先方ノ申出ヲ篤ト聽取シタル上關係各廳協力ノ上速カニ立案スヘシ

記

- 一、借款ノ實行ハ軍需資材、其ノ他ノ物資及第三國物資ノ供給竝ニ之カ輸入決濟ノ爲ニ必要トスル資金又ハ信用ノ供與ニアル處、資金又ハ信用ノ供與ニ付テハ大藏省ニ於テ出來ル丈盡力スヘキモ
- (イ) 軍需資材ノ供給ノ確保ニ付テハ陸海軍當局ノ好意的協力ヲ必要トシ
- (ロ) 其他ノ物資及第三國物資ノ供給ノ確保ニ關シテハ關係各廳ノ好意的協力ヲ必要トスルコト

三、本借款ノ緣由等ニ顧ミルモ、將又資材資金ニ付帝國經濟トノ關係一層緊密トナルヘキヲ以テ今後長江經濟回復強化施策ニ關シテハ財政經濟方面ノ専門家ニ委スルノ主旨ヲ採リ漸ヲ追ウテ之ヲ實行ニ移シ速ニ其ノ經濟回復ヲ計ルヘキコト

603  
昭和16年6月23日

### 近衛首相と汪兆銘による日華共同声明

#### 日華共同聲明全文

我等兩名ハ今次ノ事變ヲ速ニ處理シ之ヲ楔機トシテ日華兩國永遠ノ關係ヲ確立シ以テ共存共榮、東亞復興ノ共同目標ニ向テ邁進センガ爲、曩ニ善隣友好、共同防共、經濟提携ヲ内容トスル東亞新秩序ノ建設ニ關シ夫聲明スル所アリタルガ客年十一月三十日成立ノ日華基本條約及日滿華共同宣言ノ趣旨トスル所亦右ニ外ナラズ。

抑東亞新秩序建設ノ意義ハ東亞固有ノ道義的精神ヲ基調トシテ東亞ニ於ケル侵略主義及共產主義ノ流毒ヲ一掃シ相互提携、共存共榮ノ國家ヲ建設セントスルニ在リ。中國民

衆中ニハ日華ノ合作ニ依ル東亞ノ復興ヲ希望シツツモ右希望ガ果シテ實現セラルルヤ否ヤニ關シ尙自信ヲ有セズ、依然トシテ低徊觀望ノ態度ヲ持シ居ル者尠カラズ存スルガ如キ處東亞復興ノ偉大ナル事業ハ今日ノ段階ニ於テ出來得ル限リ其ノ曙光ヲ顯現セシメ大多數國民ノ信賴ヲ得テ銳意全面和平ノ實現ニ邁進スルコトニ依リ始メテ之ヲ達成シ得ベキナリ。

今回我等會談ノ結果日華兩國政府ハ右共同ノ目標ニ向テ一層ノ努力ヲ爲スベキコトヲ誓ヒタリ。國民政府ハ政治上、軍事上、經濟上、文化上、日華提携協力ノ具體的事實ヲ提供シ、民衆ヲシテ日華合作、東亞復興ガ日華兩國民ノ共同ノ使命ナルコトヲ知ラシムルニ努ムベク日本國政府亦之ニ對シテ一層ノ援助ヲ與ヘ國民政府ヲシテ能ク獨立自由ノ權能ヲ發揮セシメ以テ東亞新秩序建設ノ責任ヲ分擔セシムルニ努力セントス。

昭和十六年六月二十三日

近衛 文麿  
汪 兆 銘

604

昭和16年6月23日  
在中国中村臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

汪訪日に関する報道振り報告

南京 6月23日後発  
本省 6月23日後着

第四一三號

汪主席今次ノ訪日ニ關シテハ各紙トモ過日東京ニ於ケル汪主席歡迎狀況ヲ大々的ニ報シ特ニ我カ皇室ノ御鄭重ナル御待遇振リニ對シテハ感激ヲ以テ詳報シ居ル處當地機關紙ノ其ノ後ノ論調ヲ見ルニ「中報」ハ現ニ支那カ先輩國ナルヲ自覺スル要アルヲ認ムルト共ニ支那ノ現在求ムル所ハ單ニ其ノ獨立ノ保持ト内政的完成(完全、成就)トカ最低限度ノ願ナル旨ヲ強調シ「南京新報」ハ世界大變革此ノ際汪主席ノ訪日ハ必スヤ兩國間ノ一層緊密ナル提携ヲ招來スルト同時ニ國民政府ノ力ヲ益々増大シ支那自身ノ強大ヲ計リ又日本ト協同シテ東亞新秩序建設ノ責任ヲ負擔スル所以ナル旨ヲ力説シ居レリ(委細郵報)

本省ヨリ興亞院、關係總領事ヨリ連絡部ヘ轉報アリタシ満、在支各領事ヘ轉電セリ

廣東、新嘉坡<sup>(坡カ)</sup>ヘ轉電アリタシ

605

昭和16年6月23日  
在中国中村臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

汪訪日に対する日本側歓待振りに南京政府側満足を表明について

南京 6月23日後発  
本省 6月23日後着

第四一四號

往電第四一三號ニ關シ

主席代理陳公博ハ二十二日往訪ノ中村參事官ニ對シ汪主席ノ東京ニ於テ受ケツツアル日本ノ歡待ニ對シ頗ル満足シ感謝スルト共ニ平和運動ハ必スヤ新シキ光明ヲ發見スルニ到ルナラムト汪主席ノ歸國ヲ鶴首シ居リ上海方面ノ銀行家ヨリモ同趣旨ノ來信ニ接シ居ル旨述ヘタリ

其ノ他館員ニ於テ官邊筋ト接觸シタル印象ヲ綜合スルニ主席カ元首ノ資格ニ於テ陛下ニ御會見申上ケ我皇室ノ賓客トシテ殊遇ヲ受ケタルニ對シ感激シ居ル外我朝野ノ熱烈ナル歡迎ヲ知り主席今次ノ訪日カ國民政府強化上有效ナルヲ



認識スルト共ニ重慶側又ハ第三國ニ對スル新國民政府ノ獨立性ヲ示ス政治的影響ノ大ナルヲ喜ヒ一般ニ明朗ナル氣分ニテ今後ノ國民政府ノ強化發展ニ多大ノ期待ヲ懸ケ居ル模様ナリ

前電ノ通り轉電セリ

前電ノ通り轉報アリタシ

606 昭和16年 6月26日

在伊国堀切大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

#### 伊国政府に対し南京政府承認方申入れについて

ローマ 6月26日後発

本省 6月27日前着

第四〇七號(館長符號扱)

貴電合第一三一八號ニ關シ

二十六日本使「チアノ」ヲ往訪御訓令ノ次第ヲ申入レタル處「チ」ハ從來伊國ニ於テハ南京政府承認ノ用意アルコト御承知ノ通りニテ曩ニ本大臣ヨリ汪院長ニ電信ヲ送リタル事實又現ニ在支伊國大使力在支既ニ三年ニ及フモ未タ重慶政府ニ信任狀ヲ捧呈セサル事實等ヨリスルモ伊國ハ南京政

府ヲ事實上承認セルモ同様ニテ本問題ニ付テハ伊國ニ關スル限り何等政治上ノ困難ナキモ獨逸ト步調ヲ俱ニセサルヘカサルニ付早速獨逸ト電話ニテ話合ヒ尙「ムツソリーニ」首相ニモ話シタル上回答スヘシト答ヘタリ  
獨ヘ轉電セリ

607 昭和16年 6月26日

在独国大島大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

#### 独国の南京政府承認決定について

ベルリン 6月26日後発

本省 6月27日夜着

第七八三號(館長符號扱)

貴電合第一三一八號ニ關シ(獨伊ノ國民政府承認問題)

二十六日午后「ソンネンブル」ニ在ル「リ」外相ヲ往訪シ御訓令通り汪政權ノ承認方正式ニ申入タル處「リ」ハ直ニ在大本營「ヒ」總統ト電話連絡シ其ノ裁決ヲ得タル上獨逸ハ日本ノ欲スル時及形式ニテ汪政權ヲ承認スヘキ旨答ヘタリ

ニ、他ノ三國同盟加入國ニ對シテハ獨逸トシテ素ヨリ承認幹

旋致スヘク自分ハ明二十七日東「プロシア」大本營ニ赴クニ付獨逸ノ本件ニ關スル斡旋方法、承認ノ形式等ハ本日直ニ「ワイツゼツカ」次官ニ訓令シ置クヘキヲ以テ貴大使ヨリ「ワ」ニ直接御協議願ヒタシト述ヘタリ依テ本使ヨリ帝國政府ノ希望ハ三國同盟加入國ノ外防共協定加入國タル「スペイン」ヲモ參加承認セシムルニアリト存スルモ西カ汪政權ノ承認ヲ困難トスル何等カノ理由アリト考ヘラルルヤト尋ネタル處「リ」ハ西ハ食糧補給上英米ニ氣兼セサルヲ得サル立場ニアルモ獨蘇戰爭ニ義勇兵ヲ派遣スルコトトナリタル次第モアリ特ニ困難アリトハ考ヘス御希望ナラハ獨逸側ヨリ問合スモ差支ナシト答タルヲ以テ西ニ付テハ帝國政府ノ意嚮ヲ今一度確メタル上回答致スヘキ旨述ヘ置キタルニ付右御意嚮至急御回答ヲ請フ

三、尙本會談中「リ」ハ直接「チアノ」ニ電話連絡シ「ヒ」總統力之ヲ決裁セル旨ヲ告ケタルニ「チ」モ亦汪政權承認ニ異議ナキ旨答ヘタル趣ナリ

四、「スロバキア」ニ付テハ御訓令アリ次第本使ヨリ在當地「ス」國公使ヲ通シ申入ルルコトト致度シ

伊ニ轉電シ要略佛、西、羅、勃、洪ニ轉報セリ

608 昭和16年6月27日 松岡外務大臣より  
在上海堀内總領事宛(電報)

南京政府に対する三億圓借款供与決定について

本省 6月27日後7時20分発

第六〇五號(大至急)

今回帝國政府ハ國民政府ノ要望ニ應ヘ取敢ス限度三億圓ノ借款供與方ヲ決定シ之カ實行ニ付テハ横濱正金銀行等ニ於テ其ノ衝ニ當ルコトトセリ

南大へ轉電セリ

609 昭和16年6月27日 在独国大島大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

三国同盟加入国による南京政府承認手続き等  
に關し独国外務次官より説明について

ベルリン 6月27日後発  
本省 6月28日前着

第七八九號(至急、館長符號扱)

往電第七八三號ニ關シ

二十七日冒頭往電「リ」外相ノ申出ニ基キ「ワ」次官ヲ往訪セル處「ワ」ハ獨政府ハ七月一日附汪兆銘宛電報ヲ以テ南京政府ノ承認竝ニ外交關係ノ開始ヲ通告スヘク而シテ南京ニハ差當リ代理大使ヲ駐派スル豫定ナリ又他ノ三國同盟加入國即チ羅馬尼、洪牙利、勃牙利「スロバキア」及「クロアチア」ノ各政府ニ對シテハ日本側御希望通り御取計致スヘク其ノ方法トシテハ右諸國ニ駐在スル獨公使ニ對シ所在日本公使ト聯絡、打合セノ上措置スヘキ旨至急訓令スヘク又伊太利政府ヨリモ前記諸國ニ駐在スル伊太利公使ヲシテ同様ノ措置ヲ採ラシムル様同政府ニ電報スヘシト述ヘタリ

伊、羅、洪、勃ヘ轉電セリ

610

昭和16年6月27日

在伊国堀切大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

伊国の南京政府承認決定について

ローマ

6月27日後発

本省

6月28日後着

第四一〇號(館長符號扱)

往電第四〇七號ニ關シ

二十七日求メニ應シ本使「アンフーズ」官房長ヲ往訪セル處「プルナス」立會ニテ「ア」ハ本通告ハ「チアノ」ヨリ爲スヘキ筈ナルカ留守ノ爲本官ヨリ致セシ次第ナリト前提シ二十六日「チ」ヘ御申入ノ南京政府承認問題ニ付テハ獨逸側トモ話合ノ上承認スルコトニ決定セルニ付右假リニ貴大使ニ御通知スヘキカ通告ノ方法ニ付テハ目下獨逸側ト共ニ研究中ニテ承認ノ時機ニ付テハ御希望ニ副フ様努力スヘク尙他ノ樞軸國ニ對スル斡旋ニ付テハ早速措置スル旨述ヘタリ

獨逸ヘ轉電セリ

611

昭和16年6月29日

在独国大島大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

独国の承認後における南京政府の新駐独大使  
選定に関し意見具申

ベルリン

6月29日後発

本省

6月30日後着

第八〇五號(館長符號扱)

貴電合第一三五七號二關シ

樞軸諸國ノ南京政府承認後ハ樞軸國駐在ノ支那使臣中南京側ニ鞍替スル者アリトスルモ此ノ際蔣政權ニ屬セシ者ヲモ一掃スルノ明確ナル態度ヲ中外ニ顯示スルコト必要ト存セラルル從テ在獨ノ陳介モ個人トシテ特ニ非難スヘキ點ナキノ

ミナラス才能アルヲ以テ若シ改心セハ支那ニ於テ彼ヲ用ヒルモ可ナルモ親支獨人トモ腐縁アルニ付獨逸ニ留任セシムルハ適當ナラス館員モ志操正シキ青年外交官若干ヲ殘シ其ノ他ノ大部分ハ變更スルノ要アリ(目下各個人ニ付人物内査中ナリ)而シテ陳介ノ後任ニハ經濟人ハ兎角當國ノ親支商人ト聯絡シ面白カラサルニ付眞ニ日本ト協力セントスル人格ヨキキ人物ヲ選任セラレタシ  
尙斯ル考ヘヲ有スル向キナシト信スルモ南京ニ寢返ヘリシタル外交官ヲ殘シ將來蔣政權ニ對スル工作ニ用ヒントスル如キハ戒メサルヘカラス右爲念  
南大二轉電アリタシ

(欄外記入)

余リニ「キレイ」ナ考方ハ禁物ナリ

612 昭和16年6月30日 在中国中村臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

新駐独大使選定に関する汪兆銘の意向について

南京 6月30日後発  
本省 6月30日夜着

第四二八號(館長符號扱、至急)

貴電第二三〇號二關シ

二十九日汪主席ヲ往訪シ確メタル所ニ依レハ駐獨大使陳介、駐伊代理大使徐隋ハ夫々自分ノ外交部長時代ニ外交部ニ採用シタルモノニテ最モ關係深キ人物ナルモ自分ノ脱出以來往復ヲ斷チ今日ニテハ彼等ノ心境モ知ルニ由ナク又之ヲ説得スル途ハ日本、獨、伊ノ御盡力ニ依ル外ナキ狀態ナリ  
彼等ニシテ和平陣營ニ投シ來ルトキハ素ヨリ現在ノ地位ヲ保有セシムルニ異議ナシ陳介ノ方ハ在伯林滿洲國公使トハ中國銀行時代ノ關係ニテ交通致シ居ルト仄聞スルニ付公使ヲ煩ハスモ一策ナリト思考ス若シ陳介ニシテ承知セサルトキハ獨逸ニハ一日モ早く大使ヲ派遣スル要アルニ拘ラス今

日ニテハ本國ヨリ派遣ノ途ナク歐洲ニ在ル者ニ求メサルヘ  
カラサル處幸ニ陳公博ノ實業部長時代ノ司長ニシテ「ゼネ  
バ」ノ國際勞働事務局ニ代表者タル李平<sup>平。</sup>衡<sup>(Li Ping Heng)</sup>  
ハ豫テヨリ南京ニ復歸シタキ旨度々通シ來タリ居リ

履歷ヨリスレハ大使タラシムルモ差支ナク彼ナラハ必ス承  
諾スヘキニ付在壽府日本總領事ヲ通シ説得シ獨逸ニ赴任セ  
シムルコト然ルヘシ若シ陳介ニテ承諾セハ李ハ駐伊大使ト  
スルモ差支ナキ次第ナリ(書記官級ナラハ在獨留學生中ヨ  
リ求ムルコトモ可能ナリ)尙陳介ハ和平陣營ニ投スルモ家  
族ハ上海ニ在リテ心配ナキ事情アリ自分モヨク知り居リ且  
親獨家ナルニ付先ツ日獨兩國ヨリ説得シ動カサルコト確定  
スレハ李ニ當ルコト然ルヘシト思考スト述ヘタリ  
右汪主席ノ談話ニ徴スルモ貴電御推問ノ事項ニ對スル具體  
的意嚮ナルモノモ以上ノ範圍ヲ出テス何レノ場合モ我方ノ  
仲介ヲ要スルモノト認メラル

尙汪主席ハ本件ニ關シ昨年末日高公使ト話アリタル趣ナル  
ニ付在京日高公使ト御聯絡アリタシ

北京ニ轉電セリ

獨、壽府ニ轉電アリタシ

613

昭和16年7月1日 在中国中村臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 独伊による南京政府承認の汪宛書簡提出について

別電

昭和十六年七月二日発在中国中村臨時代理大  
使より松岡外務大臣宛第四四二号

右書簡

第四四一號(至急)

在南京獨逸總領事「ギツベルリツヒ」ハ一日午後五時十分、  
伊太利大使「タリアニ」ハ同六時二十分夫々汪主席ヲ往訪  
シ別電「リ」外相及「チ」外相ノ汪主席承認ニ關スル同  
一文句ノ書翰ヲ提出セリ(獨文ハ省略ス)尙右書翰要旨ハ外  
交部ヨリ午後九時公表セリ  
滿、北京、上海へ轉電セリ

(別電)

南京 7月2日前發  
本省 7月2日後着

第四四二號(大至急)

Shanghai July 1st 1941.

Excellency Wang Ching-wei President of the National Government of China Nanking.

I have the honour to inform you that the Fascist Government, adhering to the desire expressed by the Imperial Japanese Government, has decided to recognize the Government presided by Your Excellency.

The Fascist Government proposes to establish normal diplomatic relations with your Government and will, as soon as possible, determine with you all the matters connected with the recognition.

Signed Ciano.

~~~~~

614 昭和16年7月2日

在仏国加藤大使より
松岡外務大臣宛(電報)

南京政府の承認方仏国政府に対し申入れについて

ヴィシー 7月2日前発

本省 7月2日後着

第三三六號(至急)

貴電第二五二號ニ關シ(佛ノ汪政権承認ノ件)⁽¹⁾

七月一日「ダルラン」ヲ訪問シ本使ヨリ國民政府ノ承認問題ニ關シテハ佛國政府ニ於テモ多大ノ興味ヲ有シ居ラルルコト昨年九月「ボードアン」前外相カ澤田大使ニモ話サルタル通りナルカ國民政府モ成立以來時ト共ニ堅實ナル發育ヲ遂ケ今日ハ其ノ基礎モ充分強固トナリツツアル處七月一日獨伊兩國カ正式ニ同政府ヲ承認スルコトナリ歐洲ノ他ノ多數ノ諸國亦近ク承認ヲ與フル筈ナリ就テハ佛國政府モ此ノ際國民政府ヲ承認サレタク日本政府ノ希望ナリト申入レタル處「ダ」ハ

一、佛國ハ獨佛休戰條約下ニ於テ特殊ノ事態下ニアリ其ノ對外政策モ他ノ樞軸國ト必スシモ同一ナルヲ得ス

二、若シ休戰條約改メラレ或ル種ノ恆久的ナ條約關係成立シ之ニ依リテ歐洲ノ新事態ニ對スル佛國ノ協力關係カ確立サルルニ至ルカ如キ事態トモナラハ佛國ノ對外政策亦之ニ依リテ根本的ニ改メラルヘク其ノ場合ニハ支那ニ對スル方策モ其ノ角度ヨリ觀テ樹直サルルニ至ルヘキモ現在ハ未タ其ノ所迄ニ達シ居ラス

三、佛國ハ印度支那ニ於テ蒋介石ト國境ヲ接シ居ル處自分ノ
承知シ居ル限り汪政府ノ勢力ハ未タ西南邊境ニ迄延ヒ居
ラス佛國若シ出拔ニ汪ヲ承認セシカ英人ノ使囑モ必然ア
リ蔣側ハ佛印方面ニ爭ヲ惹起スルニ至ルヘク佛トシテハ
兵力の二佛印ニ増援シ得サル今日夫レハ困ル事態テ極力
之ヲ避ケサルヘカラス

四、⁽²⁾從テ佛トシテハ國民政府ノ承認問題ハ日本ニ對スル友好
ノ表示トシテ進ンテ爲シ度キ所ナレ共之カ爲困難ナル事
態ヲ惹起スルカ如キコトハ避ケサルヲ得サルニ付獨蘇戰
ノ結果蘇側ノ援蔣薄ラキ蔣力自然ニ勢力ヲ失墜スルカ如
キ事態トナルカ又ハ獨佛ノ協力關係カ今一段ト進展シテ
將來ニ對スル不安ナク完全ニ日獨側ト步調ヲ合セ得ル時
ニ至ル迄ハ現在ノ儘ニナシ置キ度キ意嚮ナリト述ヘタル
ニ付本使ハ佛國カ他ノ歐洲諸國ノ多クトハ東洋ニ於テ異
ナレル地位ニアルハ熟知シ居リ又今次承認ノ申出ヲ爲ス
ハ必スシモ樞軸國ト行動ヲ一ニサレタシト云フカ主眼ニ
モアラスサリ乍ラ在支佛國權益殆ト全部カ國民政府ノ治
下ニ在リ同政府ト正常ナル關係ヲ開カルコトハ佛國ノ
利益ニモ合スル次第ニ付之等ノ點モ篤ト考ヘニ入レ置カ

レ度本問題ニ付テハ何レ改メテ御話スル機會アルヘシト
述ヘ置キタリ

本件ニ關シ「ダ」ノ重キヲ置キ居ル所ハ蔣側ヨリ自發的
又ハ英ノ使囑ニ依リ佛印ニ爭ヲ持掛ケラルルコトヲ懸念
シ居ル點ニアルニ付佛印關係問題ヲ餘リ掘下クルコトハ
今日ノ事態ニ於テハ面白カラスト考ヘ以上ノ程度ニテ一
應話ヲ留メ置キタルカ此ノ際承認問題ヲ餘リ強ク佛側ニ
押付クルコトハ如何カト考ヘラル

獨ヘ轉電セリ

615

昭和16年7月2日

在上海堀内総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

独伊等の南京政府承認に関する報道振り報告

上海 7月2日後発

本省 7月2日夜着

第一一三三號

獨伊外樞軸三國ノ國民政府正式承認ノ報ハ二日上海「タイ
ムス」「ノースチャイナデイリーニユース」及和平漢字紙
ニ同盟電ニ依リ大キク報道セラレタルカ China Press 及抗

日漢字紙ハ前記同盟電ヲ全然抹殺シ専ラ重慶側反響トシテ
官邊筋ニテハ言明ヲ避ケ居ルモ右ハ支那ニ對スル最モ非友
誼的行爲ト思考シ居ル旨竝ニ外交部ハ直ニ在獨、伊大使及
館員ニ引揚方訓令ヲ發セル旨ノ一日重慶「ユーピー」電及今
回ノ承認ノ裏ニハ日本ノ對蘇戰參加ヲ條件トシ居ルヤモシ
レストテ一般ハ日本ノ出方ヲ注視シ居ル旨ノ「ルーター」
電ヲ報道スルニ止マリ居レルカ日本ノ獨蘇戰ニ對スル態度
ニ付テハ連日東京電其他ノ外電ヲ詳細ニ掲ケ極メテ注意ヲ
集メ居レリ

承認ニ關スル論說要旨左ノ通り

Daily News

獨伊カ當然既往ニスヘカリシ汪政権承認ヲ今日ニ至リテ突
然爲セルハ日本側ニテ獨ノ今次對蘇攻撃ノ結果「ヒットラ
ー」ノ誠意ニ多大ノ疑惑、不安ヲ感シ來レル爲之ヲ緩和セ
ントスル「ヒ」ノ策謀ノ表示ニ外ナラス若シ日本カ之ヲ以
テ獨ノ誠意ノ披瀝ト思考セハ大間違ニテ必スヤ最後ニ失望
スヘシ日本ノ穩健派ハ既ニ此ノ點ヲ認識シツツアリ

中美日報

獨伊諸國ノ汪政権承認ハ獨ノ對蘇戰ヲ有利ニ展開スル爲日

本ノ好意ヲ獲得セントスルニアルノミニテ之ハ現下ノ狀態
ニテハ汪政権強化ニ役立タサルノミナラス中國ノ抗戰建國
ニモ何等惡影響ヲ及ホサス却テ國際間ノ友敵關係ヲ明瞭ナ
ラシメ民主戰線ノ團結ヲ一層強化スルニ役立ツヘシ
南大、海口、北大、天津、香港ハ轉電セリ

~~~~~

616 昭和16年7月4日 在中国中村臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

南京政府の在外使臣の人は日本側の助言に  
より決定するとの汪兆銘意向について

南京 7月4日後発  
本省 7月4日夜着

第四五四號(館長符號拔、大至急)

貴電第二五一號ニ關シ

在獨逸大使來電報第八一四號ノ次第モアリタルニ付四日中  
村參事官ヨリ重ネテ汪主席ノ意嚮ヲ質シタル處

(一)此ノ際獨伊等ノ諸國ノ在外使臣ノ人選ハ萬事日本政府ノ  
御助言ニ依リ決定致度ク陳介カ獨逸ニ在勤スルコト不可  
ナリト認メラル事情アルニ於テハ在羅馬徐代理大使ヲ



轉出セシメ陳ト交替セシムルモ可ナリ徐ハ段祺瑞ノ部下  
徐樹錚ノ息子ニテ名門ノ出ニシテ獨逸語ヲ良クシ夫人ハ  
獨逸人ナル趣ナリ

(二)獨逸大使館ノミナラス其ノ他ノ公館ノ接收モ日本政府ニ  
御一任致度シ取ルヘキ手續アラハ御教示ヲ得度シト語レ  
リ

(三)徐外交部長モ陳、徐トモ自分ハ以前懇意ナリシニ付何等  
カ自分ノ傳言ニテモ役立ツコトアラハ日本大使ニ於テ然  
ルヘク書簡ニテモ御作成ノ上御利用願度キ旨申出居レリ  
(四)現地ニ於テ見タル國民政府ノ内情ハ冒頭貴電ノ如ク人材  
ニ缺乏甚シク殊ニ外務部内ニ於テ著シク感セラレ居ルニ  
付蔣政權ノ一派ニ斷然タル態度ヲ取ルモ後任ノ補充ハ甚  
シク困難ナリト觀測ス

(五)貴電第二五一號ノ御趣旨及本電ハ在伊大使ヲ始メ國民政  
府ヲ容認シタル各國ニ駐在スル帝國使臣ニモ訓令相成リ  
右御方針ニテ善處セシメラルコト然ルヘシト思考ス御  
參考迄

617 昭和16年7月5日 在北京土田大使館參事官より  
松岡外務大臣宛(電報)

南京政府承認後における独国の華北權益増進  
への要望に関する対策考究方具申

北京 7月5日後発  
本省 7月5日夜着

第四三七號

上海發大臣宛電報第一一五〇號ニ關シ

當地獨逸大使館方面トノ接觸ニ依リ得タル印象ニ依ルモ獨  
逸ニ於テハ從來トモ支那就中北支ニ於ケル通商經濟權益ノ  
増進ヲ熱望シ居タル様ニ見受ケラレ從テ今次南京政府承認  
後ハ益々斯卡ル方面ニ進ミ來ルコト豫想ニ難カラサルニ付  
當方ニ於テモ軍、興亞院方面ト聯絡シ對策ヲ考究スヘキモ  
本省ニ於テモ御考究置キ相成度爲念

南大、上海へ轉電セリ

618 昭和16年7月5日 在独国大島大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

南京政府との通商条約締結に関する独国政府

の意向について

ベルリン 7月5日前発

本省 7月8日前着

第八四一號(館長符號扱)

往電第七九〇號二關シ

三日「ヴィール」ハ松島ニ對シ南京政府トノ通商條約締結ニ關シテハ近ク「ウォールター」ニ訓令ノ答ナルカ右ニ依リ獨側ハ在支獨逸人ト日本人トノ同一待遇方必スシモ希望セサルモ獨逸人カ第三國ト異ナル特惠待遇ヲ享受スルコトトシ度ク尤モ伊太利ハ獨ト諸般ノ點ニ於テ異ルモ之ニ獨ト同一ノ待遇ヲ與ヘラルルニ異議無キ旨述ヘタルニ松島ヨリ南京側カ斯ル獨側ノ提案ヲ容ルル場合ニハ日本モ亦獨ノ勢力圈内ニ於テ獨以外ノ第三國人ヨリモ良好ナル待遇ヲ得度ク或ル程度日本ハ右圈内ノ或ル地方ニ於ケル獨逸ノ如キ深キ利害關係ヲ有セサル所アルモ今後歐洲東亞兩圈間ノ經濟的互讓關係ヲ増進スルカ爲ニハ相方ノ互讓形式ヲ均等トスルコトヲ最モ重要ナル旨説明セルニ「ヴィ」ハ本件發展次第今後共意見ノ交換ヲ致度ト答ヘタルニ付松島ヨリ南京政府ト本件交渉ヲ開始スル際ハ豫メ獨提案ノ内容通報アリ

度キ旨依頼シ置キタリ

伊ハ轉電セリ

~~~~~

619 昭和16年7月10日

在中国中村臨時代理大使より
松岡外務大臣宛(電報)

對華僑工作の観点より仏国による南京政府承認を汪兆銘希望について

南京 7月10日後発

本省 7月10日夜着

第四七〇號

在佛大使發閣下宛電報第三三六號二關シ

九日他用ヲ以テ中村參事官汪主席ヲ往訪ノ際主席ハ各國ノ承認招致ニ對スル日本政府ノ重々ノ配慮ヲ謝シタル後佛政府ノ態度ニ對シテハ頗ル遺憾ノ意ヲ表シ居リ西南地方カ佛印ト接壤地帯ノ關係ニアリ國民政府ノ勢力ハ未タ同地ニ及ハサルコトハ事實ナルモ結局ハ上海ニ佛租界ナル尨大ナル權益ヲ保持シ居ルコトモ考慮ニ容ルルヲ要スヘク他方國民政府ハ佛國ノ承認ヲ得テ多數華僑ノ居住セル佛印方面ニ代表者ヲ派遣スルヲ得ルニ到ラハ進ンテ「タイ」其ノ他南

洋各方面へノ華僑工作ノ基地トナスコトモ得ル次第ナルニ
付佛國ノ承認ハ對華僑工作ヨリ考フルモ重要ナル意義ヲ有
スル次第ナリ依テ重ネテ日本政府ノ御援助ヲ御願ヒスル旨
述ヘタリ

620

昭和16年7月16日 在中国日高臨時代理大使より
松岡外務大臣宛(電報)

南京政府が日本側に希望する諸問題を調整する
ための委員会設置を徐良外交部長提議について

付記 昭和十六年五月十三日付周仏海行政院副院長

より在中国本多大使宛書簡

日本に対する南京政府の希望について

南京 7月16日後発

本省 7月16日夜着

第四八二號

日支間諸問題ノ調整ニ關シ

外交部長徐良ハ十五日附公文ヲ以テ曩ニ周副院長ヨリ本多
大使宛書翰ニ對シ原則上ノ承認ヲ與ヘラレタルコトヲ感謝
スルト共ニ速ニ之ヲ實現ヲ圖ル見地ヨリ國民政府ニ於テハ

特ニ日華基本條約議定ニ參加セル者ヲ以テ委員會ヲ組織シ
其ノ推進ヲ圖ルコトトシ陳公博、周佛海、梅思平、林柏生、
徐良、楊揆一、陳春甫、陳君慧、周隆庠ノ九名ヲ委員ト指
名シタルニ付我方ニ於テモ同様ノ組織ヲ構成セラレ必要ニ
應シ商議セラレンコトヲ希望スル趣旨ヲ申出テタリ

公文空送ス

興亞院及華中連絡部ニ轉報アリタシ

上海へ轉電セリ

(付記)

日本政府ニ對スル希望送付ニ關スル周行政院

副院長來翰(譯文)

拜啓陳者別添送付ノ希望一通主席ノ命ニ依リ提出スルモノ
ナルニ付貴國政府ニ御傳達ノ上我方希望ノ各項逐一實現シ
得ラルル様特ニ御援助賜リ度此段御依頼得貴意候 敬具

五月十三日

周佛海

本多大使閣下

(別添)

日本政府ニ對スル希望譯文

貴國政府ノ國策カ國民政府ヲ強化シテ各般ノ政策ヲ實施セシメ以テ民心ヲ收攬シ重慶政權ヲ破摧シ全面和平及建國ノ任務ヲ完成セシメントスルニ在ルコトハ國民政府同人ノ深く了解スル所ナルト共ニ其ノ眞摯ナル態度ニハ極メテ感激スル所ナリ國民政府ノ方針ハ右貴國ノ國策ト完全ニ一致セルモノナルヲ以テ今日ニ至ルマテ微力ヲ盡シテ其ノ成功ヲ企圖セルカ國民政府還都以來既ニ一年餘ヲ閱シ其ノ間模範軍隊ノ建設、匪軍ノ招撫、軍艦ノ接收、財政ノ整理、金融ノ安定、糧食ノ購入運搬、工場ノ接收、文化資料ノ保管、放送局ノ接收其他軍事、政治、經濟、文化各方面ニ亘リ貴國在支各機關ノ援助ニ依リ相當ノ成績ヲ擧ケ得タルハ政府及人民ノ均シク感謝スル所ナリ然レトモ政府ノ負ヘル全面和平ノ任務ヲ完成セントセハ政府ノ統一強化ヲ謀ルト共ニ各般ノ政策ヲ實施シ以テ民心ヲ把握スルニ非サレハ其ノ功ヲ收ムルヲ得ス現下ノ狀態ヲ以テシテハ遂ニ此ノ遠大ナル目的ヲ達成スルコト能ハサルヘク一念茲ニ及ハハ眞ニ寒心ニ堪ヘス殊ニ外間流言甚多ク或ハ謂フ貴國政府ハ今ヤ前述

ノ國策ヲ忘却シ國民政府強化ノ熱意日ニ冷淡トナリツツアリト或ハ謂フ貴國政府ハ國民政府ノ立場ヲ考慮セス直接重慶ニ對シテ祕密裡ニ和平ノ交渉ヲ進メツツアリト是等種々ノ流言ニ對シ政府同人ハ絶エス不安ヲ感シツツアルノミナラス人民ヲシテ國民政府將來ノ運命ニ對シ疑惑ノ念ヲ起サシメツツアリ現在ノ情態ニ於テハ國民ノ政令南京ヲ出ツル能ハスト謂フモ過言ニ非ス若シ貴國ノ國民政府ニ對スル援助カ果シテ外間ニ傳フル如ク日ニ冷淡ニ趨キツツアリトセハ焉ンソ能ク民心ヲシテ歸服セシムルコトヲ得ンヤ焉ンソ能ク國民政府ヲ強化シ以テ全面和平ノ使命ヲ完成セシムルコトヲ得ンヤ營ニ之レノミナラス若シ現狀ヲ改善セサレハ國民政府ノ忠實ナル中堅分子ハ日ニ益々悲觀シ政府ヲシテ崩壞ニ至ラシムル惧スラアリ斯カル慘事ヲ惹起スヘキ可能性ハ充分ニアリ國民政府同人ハ德薄ク能少ク還都一年餘ニシテ尙未タ重慶政權ヲ崩壞セシムルコト能ハス尙未タ重慶方面大多數ノ民衆ヲシテ和平陣營ニ投セシムルコト能ハサル所以ニ付テハ國民政府同人先ツ自ラ責ムヘキモノタルヲ深く自覺シ居レリ斯カル局面ヲ現出セルハ固ヨリ國民政府同人ノ能力薄弱ナルニ因ルモ環境ヨリ來ル種々ノ束縛ト障

碍トニ因由スルモノナルコト亦否ムヘカラス右ハ速ニ改善ノ必要アルコトヲ坦白ニ陳述セント欲スル所以ナリ

貴國力作戰遂行上必要トスル事項ニ關シテハ條約上既ニ明文ノ規定アリ國民政府力欣然之ニ協力スヘキハ當然ニシテ何等言フヘキ所ナシ然レトモ作戰ニ關係ナキ事項ニ付テハ貴國力國民政府ニ便宜ヲ與ヘ以テ使命完成ノ目的ヲ達成セシメンコトヲ希望セサル能ハス茲ニ特ニ重要且ツ緊急ナル事項ヲ列擧スレハ左ノ如シ

甲、各種日支合辦會社ノ調整ニ關スル事項

現在支那ノ民衆ハ何レモ貴國ノ支那ニ於ケル企圖ハ經濟侵略ニ外ナラス名ハ日支合辦ノ會社ト云フモ實ハ經濟侵略ノ方法ト道具ナリト思惟シ居レリ斯カル觀念ハ固ヨリ認識不足ニ基クモノニシテ當然矯正セサルヘカラサルモノナルモ目前ノ不合理ナル狀態ノ下ニ於テハ民衆ハ日支合辦會社ニ對シ大ナル疑惑ト恐怖感ヲ抱キテ之ニ參加スルヲ欲セス之カ爲巨額ノ遊資空シク租界内ニ眠ルヲ坐視スルノミニテ之ヲ利用スル能ハサル實情ニアリ是レ實ニ日支双方ノ重大ナル損失ナリ一般民衆力前述ノ如キ觀念ヲ抱クニ至レルハ實ニ貴國力作戰ト直接關係ナキ合辦會社ニ對シテ調整ヲ肯ン

セサルノ致ス所ナリ國民政府還都一年有餘ニシテ合辦會社ノ調整セラレタルモノ竟ニ一モナシ我國人民カ貴國ノ誠意ヲ疑フハ實ニ原因無シトセサルナリ斯カル現狀ハ速ニ之ヲ矯正セサレハ不可ナリ竊カニ惟フニ各種合辦會社ニシテ作戰上絕對必要アルモノハ其ノ調整ヲ稍遲ラスモ可ナリ若シ夫レ作戰ト直接ノ關係ナキ會社ニ至リテハ條約及内約ノ趣旨ニ基キ速ニ具體的調整ヲ加ヘラレンコトヲ希望ス

乙、物資流通ニ關スル問題

現在一切ノ物資ノ流通ニ關シテハ其ノ軍用品タルト軍用品ニ非サルモノタルトヲ問ハス甚シキニ至リテハ軍事ト全然關係ナキ商品スラ何レモ嚴格ナル制限ヲ受ケ其ノ結果和平區域内ノ商工業ハ疲弊シ物價ハ暴騰シ政府ノ財源亦枯渴ニ瀕シ國民政府ノ基礎遂ニ漸ク根本的動搖ヲ見ルニ至ラントシツツアリ

茲ニ作戰期間内ニ於テ一方作戰上ノ必要ニ鑑ミ一方民生及財政ヲ顧慮シ貴國在支各關係特ニ在支軍當局ト協力シテ上海及前戰^(線カ)ヲ取締ヲ強化シ内部ノ流通ヲ圖ル爲現ニ極力研究ヲ進メツツアリ而シテ左記ノ希望事項ハ既ニ貴國在支軍當局ニ諮リ其ノ同意ヲ得タリ

一、物資流通ニ關スル對策トシテ如何ナル物資ヲ軍事上ノ必要ニ基キ統制スヘキヤ如何ナル物資ハ統制ヲ受クル必要ナキヤ其他統制實施ノ方法等ハステ國民政府ト貴國在支各關係機關トノ間ニ共同委員會ヲ組織シテ之ヲ協議決定スルコト

二、物資流通ノ管理機關モ亦日支双方共同シテ之ヲ組織スルコト

三、運搬及配給ノ機構ニ付テハ日支商人同等ノ待遇ヲ受クヘキコト

四、和平區域内ニ於ケル生活必需品ハ充分流通セシムル如ク施策スルコト

五、物資ヲ海外ニ輸出シ外貨ヲ獲得スル爲ニハ宜シク統制ヲ加ヘ日支兩國共通ノ目的ヲ達成セサルヘカラス此ノ點ニ關シテハ貴國ノ協力ト援助トヲ希望シテ已マス但シ日本ノ對外貿易ト合作スル必要アル場合ニハ當然日本側ト協議スヘキコト

同時ニ左記日本側ノ提案ハ我國ノ同意ヲ與ヘタルモノナリ一、作戰遂行ノ爲制限ヲ加ヘサルヲ得サルモノアルコト

二、流通區域ノ外圍即チ上海及前線ノ統制ハ日支双方協力シ

テ其ノ強化ヲ謀ルヘキコト
之カ爲

一、前線及上海ノ周圍ニハ固定の統制及封鎖ノ配置ヲ施スコト

二、物資ノ敵地流出ヲ防止スル爲重要地點ニ經濟警戒隊ヲ配置スルコト

三、日支協力シテ物資分配機構ノ合理化ヲ謀リ具體的ニ内部物資ノ流通ヲ促進スルコト

現地ニ於ケル本問題ノ進捗狀況ハ略上述ノ如シ之ヲ要スルニ國民政府ノ希望スル所ハ現行統制ニ對シ再檢討ヲ加ヘ且其ノ緩和ヲ圖リ統制ノ繼續ヲ必要トスルモノハ兩國協力シテ切實ニ合理的物資管理ヲ實行セントスル點ニアリ今後貴國在支各機關ト共同協力シテ前記諸原則ヲ具現シ以テ一般産業ヲ振興シ國民生活ノ安定ヲ圖ルコトハ其ノ最モ希望スル所ナルト共ニ貴國政府カ國民政府ノ熱意ヲ諒解シ協力援助シテ其ノ任務ヲ達成セシメンコトヲ望ンテ已マス

丙、國民政府ノ各級地方政府ニ對スル統馭力

強化ニ關スル問題

現在國民政府ハ各級地方政府ニ對シ實際上尙指揮意ノ如ク

ナル能ハス華北及武漢一帯ハ固ヨリ論スル迄モナク華中及華南各省市ノ人事及内政スラ常ニ貴國關係方面ノ掣肘ヲ受ケ居ル實情ナリ而シテ貴國關係方面ハ又極メテ複雑ニシテ聯絡上頗ル困難ヲ感スルモノアリ軍事期間中地方政府ト作戰部隊トカ氣息相通スル必要アルコトハ國民政府同人ノ能ク了解スル所ナルモ軍事ト直接關係ナキ事項ニ付テモ亦其ノ掣肘ヲ受ケ國民政府ノ強化ヲ阻碍スルノ結果ヲ招クコトハ我國民ノ解釋ニ苦シム所ナリ茲ニ軍事ト行政ト兩方面ヲ顧慮シ左記數點ノ了解ヲ得ンコトヲ希望ス

一、各級地方政府ノ人事異動(例ヘハ中央ニ於テ省政府主席、委員、廳長及特別市長、局長等ヲ動かス場合、省政府ニ於テ縣長、市長等ヲ動かス場合)ハ事前ニ上級ノ責任者ヨリ非公式ニ日本側關係方面ニ通知スルコトハ差支ナシ但シ右ニ對シ干涉ヲ加ヘサルコトヲ希望ス尙日本側各關係機關ニ於テハ中央政府及地方上級機關ニ協力シテ其ノ政令ノ施行ヲ貫徹セシメラレンコトヲ希望ス若シ貴國側ニ於テ苟クモ干涉ヲ加フルカ如キコトアレハ啻ニ上級政府ノ威信地ヲ掃フテ其ノ指揮意ノ如クナル能ハサルノミナラス政府ト日本側トノ間ニ齟齬ヲ生シ下級官廳カ日本

側ノ庇護ヲ利用シ往々ニシテ上級機關ノ政令ニ反抗シ又ハ之ヲ輕視スルノ風ヲ醸成シ易シ

二、各級地方政府内部ノ事務官ノ異動(例ヘハ省、市、縣政府ノ科長祕書等)ニ付テハ特ニ日本側ニ於テ干涉ヲ加ヘサルコトヲ希望ス然ラサレハ各級官廳ハ其ノ内部ノ職員ヲ指揮スルコト能ハス行政及軍事上至大ノ支障ヲ來ス處アリ

三、現在國民政府所屬ノ地方機關ハ常ニ當該地日本側各機關ノ庇護ヲ受ケ中央又ハ上級機關ノ命令ニ反抗シ(例ヘハ縣連絡官カ縣長ニ加袒シテ省政府ノ命令ニ反抗シ又ハ特務機關カ省政府又ハ特別市政府ニ加袒シテ中央政府ノ命令ニ反抗スルカ如キ)之レカ爲政令ヲ行使スル能ハス且ツ行政系統ヲ紊亂セシムル實情ニアリ斯カル習慣ハ急速ニ排除スルヲ要ス尙必要ノ際ニハ中央及上級地方機關ヲ援助シテ一切ノ政令ヲ推行シ上級機關ノ威信ヲ強化セラレンコトヲ希望ス

丁、武漢方面ニ對スル希望

武漢方面ノ現狀ハ之ヲ華南華中ト比較シテ特異ノ點尠ナカラス作戰上武漢カ其ノ他ノ地方ニ比シ特異ノ點アルコトハ

已ムヲ得サルトスルモ一切ノ状態ハ努メテ宜シク廣東ノ現狀ト同一ナラシメサルヘカラス故ニ下記ノ各點ヲ實行センコトヲ希望ス現ニ貴國ノ在支軍當局モ大体ニ於テ右ハ實現ノ可能性アリト認メ其ノ具現ニ協力スヘキ旨希望シ居レリ貴國政府ニ於テ之カ促進ニ盡力セラレンコトヲ希望ス

一、省、市政府ノ人事ハ華中及華南ト同様中央ノ自由處置ニ任セシムルコトヲ希望ス

二、現在中央ノ武漢ニ設置セル財政整理委員會ハ一有名無實ノ機關ナルヲ以テ今後ハ各種ノ中央稅收ハ實際上國民政府ニ移管シ政府自ラ整理ヲ行ヒ日本側各關係機關ハ之ニ掣肘ヲ加ヘス專ラ援助ヲ與ヘ最低限度廣東ノ現狀ト同様財政當局ヲシテ自由ニ職權ヲ行使セシムルコトヲ希望ス三、省、市政府ノ日本人顧問ハ華中華南各省市ト同様トスル様調整ヲ加ヘラレンコトヲ希望ス

四、其他ノ一切ノ事項何レモ華中及華南ト同様ナル如ク希望ス

戊、華北方面ニ對スル希望

全面和平恢復以前ニ於テハ作戰ニ妨ナキ範圍内ニ於テ華北ノ現狀ハ歩一步内約ニ基キ之ヲ調整センコトヲ希望ス左記

ノ諸點ハ特ニ緊急ナルヲ以テ速ニ促進方希望ス

一、華北政務委員會及各總署督辦ノ人選ハ中央ニ於テ自由ニ處置スル權アルコト其ノ手續ハ丙ノ(一)ニ依リ辦理スルコト

二、日支基本條約竝ニ其ノ附屬議定書、交換公文及内約ニ牴觸セサル範圍内ニ於テ華北ノ法令ハ中央ニ於テ調整シ之ヲ統一スルコト

華北ノ司法モ亦中央ニ於テ統一スルコト

三、河南省ハ約定ニ照シ中央ニ直屬セシムルコト江蘇ノ徐海道一帯及安徽ノ淮北一帯ノ原ト江蘇、安徽兩省ニ屬スル各縣ハ速ニ夫々江蘇及安徽兩省政府ノ統治ニ復歸セシメ中國多年ノ省界ヲ混亂スルコト無キ様希望ス

己、家屋ノ調整ニ關スル問題

各地ノ家屋ハ其ノ權利者一時不在ナリシ爲日本側ニテ使用セルモノ甚ダ多シ其中一部分ハ貴國在支關係當局ノ援助ニ依リ既ニ解決ヲ見タルモノアルハ甚タ感謝ニ堪エサル所ナリ然レトモ大部分ハ尙未解決ノ儘ナルヲ以テ速ニ方法ヲ講シ貴國ノ作戰上必要トスルモノヲ除キ特ニ軍事ト關係ナキ民有家屋ハ優先的ニ之ヲ返還シ以テ民生ノ困難ヲ救済セラ

レンコトヲ希望ス

以上ノ各項ハ平日何レモ貴國側在支各責任アル長官ト隨時
懇談シ誠意ヲ披瀝シテ意見ヲ交換シ既ニ贊同ヲ得居ルトコ
ロナルモ相當ノ日時ヲ經過シテ今尙其ノ實現ヲ見ルニ至ラ
サルハ甚タ遺憾トスル所ナリ前述ノ各事項中ニハ貴國中央
ト關係アルモノアリ又貴國在支各機關ニ於テ解決セラルベ
キモノアルコトハ之ヲ承知シ居ルモ種々ノ原因ニ依リ之カ
推進ニ困難ヲ感シ居ルモノナルヲ以テ特ニ列舉セル次第ナ
リ其中貴國中央ノ關係事項ハ貴國政府ニ於テ方針及辦法ヲ
確定シ適當ノ措置ヲ取りテ貴國在支各機關ト國民政府トノ
交渉ノ進捗ニ便ナラシメンコトヲ希望シ茲ニ特ニ誠意ヲ披
瀝シテ陳述シ速ニ具体的回答ニ接センコトヲ期待スルモノ
ナリ又現地關係ノ事項ハ參考ニ供スル目的ヲ以テ其ノ實情
及進行狀況ヲ記述セルモノナルニ付貴國政府ニ於テ之ヲ諒
解シ援助促進セラレンコトヲ希望ス

上述各項以外貴國政府ノ國民政府強化方針、對重慶工作、
東亞聯盟及軍器借款等ノ事項ニ付テモ具体的ニ協議スル必
要アリト思惟スルモ右ハ事態重大ニシテ且ツ根本的問題ナ
ルヲ以テ主席自ラ陳述スル所アルヘシ

以上

621

昭和16年7月26日

在中国日高臨時代理大使より
豊田外務大臣宛(電報)

三億円借款の今年度割当分を専ら武器購入に
あてたいとの汪兆銘申し出について

南京 7月26日後発
本省 7月26日後着

第五一九號(極秘)

國民政府ニ對スル三億圓ノ借款ニ關シ

二十六日汪主席ハ影佐顧問ニ對シ本借款ニ付テハ日本側ノ
意嚮トシテ年五千萬圓程度宛使用差支ナキ様承知シ居ル處
差當リ今年度ハ右金額ヲ以テ専ラ武器ノ供給ヲ受ケタキ積
リナリ實ハ過日借款ノ件發表以來各方面ヨリ種々ノ要求出
テ居リ此ノ儘ニテハ收拾シ難キ事態ニ陥ル惧モアリ此ノ際
國民政府側ニテ至急一案ヲ持シ日本側ニ申出テルコトト致
度シ殊ニ近ク下級幹部軍官モ卒業スルヲ以テ武器ノ入手早
急ヲ要スル次第モアリ顧問部ニ於テモ本件達成方竝ニ立案
計畫ニ協力セラレタシト申出テタリ

本件ハ早速總軍側ヨリ陸軍中央ニモ請訓シタル由ナルカ不
取敢御參考迄

尙影佐ノ内話ニ依レハ政府ニ於テハ武器ノ缺乏ノ爲現二軍
ノ建設及訓練ニ至大ノ支障ヲ來シ極メテ困難ヲ感シ居ル實
情ニテ本件申出ニ對シテハ日本側ニ於テモ好意的ニ考慮ヲ
拂フコト可然トノ趣ナリ



622 昭和16年9月6日 在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

南京政府承認の時期は慎重に決定したいとの

仏国政府意向について

ヴィシー 9月6日前発
本省 9月6日夜着

第四九二號(至急)

貴電第三六八號ニ關シ(在佛印重慶側領事追放ノ件)

五日「ダルラン」副總理ニ面會貴電ノ趣旨ヲ申入ルルト同
時ニ國民政府承認問題ニ關シ督促セル處「ダ」ハ

一、國民政府ノ承認ニハ佛國政府ニ於テ何等異存ナキ次第ナ
レトモ只其ノ時機ノ選擇ハ自分ニ任カセラレ度ク佛國ト

シテハ現駐支大使ハ重慶ニ赴カシメス又新任ノ大使ヲモ
支那ニ赴任セシメス事實上重慶側トハ何等ノ外交關係ヲ
有シ居ラサル次第ナルカ今急ニ南京政府ヲ承認シ重慶ト
正面ヨリ斷交スルコトハ一面重慶側ニ不必要ナル刺戟ヲ
與ヘ東京灣方面ニ對スル不安ノ情勢ヲ醸ス惧レアルノミ
ナラス英米等ニ對シテモ相當ノ反響ヲ與ヘ恰モ折角安眠
中ノ子供ヲ呼ヒ起スカ如キ結果トナリ面白カラス繰返シ
申述フル次第ナルカ問題ノ實質ニ付テハ決シテ異存ナキ
譯故時機ノ選定タケハ自分ニ委カサレ度シ

二、實ハ獨佛協調ノ根本問題ニ關シ獨佛間ニ新ナル談合ヲ開
始スルコトニ最近決定シ此處十日位ヨリ右交渉開始ノ筈
ナルカ其ノ結果佛國ト樞軸諸國トノ關係カ新タナル意味
合ニテ展開ヲ見ルニ至ル可能性アリト信スル處右様ノ場
合ニハ直ニ國民政府ヲ承認シ差支ナシト考ヘ居レリ

三、佛印ニ於ケル支那領事其ノ他ノ退去問題ハ共同防衛及防
諜等ノ見地ヨリ御尤ト考ヘラルルニ付實行方法等ニ付關
係當局ニ早速研究セシムルコトトスヘシト申シ居リタリ



623

昭和16年9月27日

在中国本多大使より
豊田外務大臣宛(電報)

揚子江下流地帯における物資移動の制限緩和

問題への対応振りにつき報告

南京 9月27日後発

本省 9月27日夜着

第六八二號

周佛海發本使宛書翰ヲ以テ要請シ來レル諸調整事項ノ中揚子江下流地帯ニ於ケル物資移動ノ制限緩和ノ問題ニ關シテハ現地連絡委員會トシテモ研究ヲ重ネ居リシ處此ノ程(一)上海周邊殊ニ前線ニ於ケル物資ノ取締ハ強化スルモ(二)右地域内部ニ於テハ原則トシテ軍需調達以外ノ移動制限ハ撤廢シ(三)許可機關ニ付テハ支那側機關ニモ生絲、繭、茶、卵ノ四品目ノ許可ヲ實施セシムルノ三ノ觀點ヨリ改良ヲ加ヘ大體支那側ニ於テモ満足シ得ル規則ヲ制定セラレ從來ノ祕密主義ヲ改メ二十六日總軍司令官及艦隊司令官ノ布告トシテ發表シ十月一日ヨリ實施スルコトナリタリ(關係書類累次空送濟)

本規則ハ素ヨリ完全ナルモノニハアラス今後ノ經驗ニ徴シ

將來又改正ヲ加フヘキモノナルハ或ル程度自由ヲ回復シ且支那側ヲ干與セシムル先例ヲ開キタルモノト認メラル支那側ニ於テハ右ノ意味ニ於テ概シテ満足ノ意ヲ表シ居レリ

~~~~~

624

昭和16年10月8日

豊田外務大臣より  
在米國野村大使他宛(電報)

### 南京政府による在外使臣の任命や国共關係の悪化狀況など最近の中國情勢について

本省 10月8日發

合第二一三〇號

(支那情報)

一、汪主席ノ訪日ニ關聯シ七月以降獨、伊、西、洪、勃、羅「スロバキヤ」「クロアチア」丁抹ノ諸國相繼イテ南京政府ヲ承認シタルヲ以テ國民政府ニ於テハ駐獨大使ニ李聖伍駐伊大使ニ吳凱聲駐羅公使ニ芳駐西公使ニ王德炎ヲ夫々任命、吳及李芳ハ館員ト共ニ近々赴任ノ豫定ナリ二、汪主席ハ六月下旬訪日ヨリ歸寧スルヤ我方トノ連繫ヲ一層緊密ナラシメ以テ國民政府ノ基礎ヲ強固ナラシムル爲愈國府改組ニ乗出スコトナリ種々工夫ヲ凝ラシタルカ

結局警政部ヲ内務部ニ併合シ農鑛部ト工商部ヲ合セテ新ニ實業部ヲ作り又鐵道部ハ交通部ニ併合、社會部ハ之ヲ廢止スルコトニ落着セリ

右ニ依り從來ノ行政院十四部八十部トナリ事務ノ簡捷化ヲ計リ得タルノミナラス各部長ノ顔貌モ國民黨關係者ヲ中心トスル同志の結合ノ色彩濃厚トナリ本改組ハ過渡的措施トシテハ兎モ角成功ト言ハサルヲ得ス追テ右ニ關聯シ駐日大使褚民誼ハ再ヒ外交部長ニ復歸徐良駐日大使ニ轉出スルコトナレリ

三、本多大使ノ歸任後國府強化策着々實行ニ移ス爲大使ノ諮問機關トシテ大使館内ニ陸軍及華中聯絡部關係者竝ニ青木全國經濟委員會最高顧問等ヲ委員トスル連絡委員設置セラレタルカ目下研究中ノモノハ物資統制ノ合理化、合辦會社ノ調整、土地家屋ノ返還等ノ問題ニシテ我方トシテハ汪、近衛共同聲明ノ趣旨ニモ鑑ミ帝國ノ國民政府ニ與ヘタル言質ハ飽ク迄之ヲ實行ニ移シ以テ國民政府ノ育成強化ヲ計リ度キ銳意努力中ナリ

尙汪主席訪日ノ際國民政府ニ供與セル三億圓ノ「クレヂツト」ニ關シテハ今年度ハ差當リ四千萬圓程度ノ物資ヲ

供給スルコトシ目下先方ノ希望ニ從ヒ武器其ノ他ノ器材供給方考究中ニテ近ク實現ノ見込ナリ

四、重慶ハ物資ノ不足及法幣ノ停止スルコトナキ増發ニ依リ極度ノ「インフレ」ニ悩サレ居リ事變前ニ比シ白米十三倍、小麥、砂糖及鹽十倍、茶及棉花十八倍、石炭三十一倍、木炭四十五倍トナリ居リ政府ノ財政モ本年度歲出豫算ハ六十億ナルモ物價騰貴ノ結果實際ニハ百五十億ヲ要スヘク之ニ對スル歲入ハ稅收五億英米ヨリノ「クレヂツト」十五億ニ過キス公債モ民間ニ消化セラルルハ五億程度ニシテ殘額百二十億ノ公債ハ銀行引受トナリ結局法幣増發ノ外ナク惡性「インフレ」ニ更ニ拍車ヲ掛クルコトナルヘシ

五、本年一月皖南新四軍攻擊事件ヲ口火トシテ急速ニ激化セラレタル國共關係ノ惡化ハソノ後臨時辦法十二ヶ條ヲ廻リテ國共兩者間ニ交渉繼續セラレタルカ英米ノ勸告ニモ不拘解決ヲ見ス本年五、六月ノ皇軍ノ所謂中原作戰ニ當リテ第十八集團軍ハ重慶ノ命令ヲ無視シテ皇軍ニ對シ反撃ヲ加ヘス重慶側ハ之ニ對シ「共產遊擊軍遊シテ撃タス」トテ盛ニ言論戰ヲ以テ報イタルカ獨蘇戰勃發ト共ニ

中共側ノ態度稍妥協的トナリタルニ反シ重慶側ノ態度硬化シ國共關係ハ依然トシテ睨合ノ形ニシテ重慶ハ中共ニ對シ武器及物資ノ供給ヲ停止シ居ル模様ナリ

編注 本電報の宛先は「支那關係情報通り(但シ支那方面ハ除ク)」となっている。

~~~~~

625 昭和16年11月15日 在中国日高臨時代理大使より
東郷外務大臣宛(電報)

防共協定への参加に関するわが方打診に対し
汪兆銘は欣然参加の意思を表明について

南京 11月15日後発
本省 11月15日夜着

第八〇四號(極秘、館長符號扱、至急)

貴電第四七五號ニ關シ(國民政府ノ防共協定参加ノ件)

十五日汪主席ニ對シ御來示ノ次第ヲ申入レタル處即座ニ國民政府トシテ欣然參加致スヘキニ付斡旋ヲ請フ旨答ヘタリ
(欄外記入)
尙其ノ際主席ヨリ(イ)本協定ニハ別ニ傳ヘラルル如キ秘密取極ナキヤ(ロ)二十五日以前ニ参加スルコト可能ナリヤト質シ

タルニ付(イ)斯ルモノ存セス(ロ)二十五日調印ノ議定書ニテ定マル参加手續ニ依リ第一番ノ参加國タラントスル次第ナル旨説明シ置ケリ

獨大使發貴大臣宛電報第一三二〇號ノ次第モアリ特ニ秘密嚴守方申入レ且當地獨伊代表者トハ未タ聯絡シ居ラサルニ付當方ト相談無ク彼等ニ聯絡セサル様打合せ置ケリ(此ノ點ニ關シ何分ノ儀折返シ御指示ヲ請フ)

(欄外記入)

獨伊大使ト共ニ正式勸誘セシメルコトトセリ 太田

~~~~~

626 昭和16年11月18日 在中国日高臨時代理大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

南京政府の防共協定参加に関する宣伝振りに

つき請訓

南京 11月18日後発  
本省 11月18日夜着

第八〇七號(館長符號扱)

貴電第四八二號ニ關シ(國民政府ノ防共協定参加ノ件)

本使楮民誼外交部長ニ聯絡ノ上所要ノ手續完了ヲ勸告シ電報ハ二十五日中ニ發スル様承諾ヲ得タリ

尙其ノ際發表宣傳振等ニ關シテハ日本政府ニ於テハ本件防共協定延長竝ニ國府參加ヲ此ノ際相當大々的二宣傳セラルル氣持ナルニ於テハ國民政府ニ於テモ外交部長ノ「ラデオ」放送其ノ他宣傳ニ力ヲ入ルル意嚮ナルニ付日本政府ノ氣持ヲ承知シタキ旨申出テタリ本件宣傳ニ付テハ目下進行中ノ日米交渉トモ關聯スル所アルモノト思考セラルルニ付何分ノ儀御回訓相煩度シ

627 昭和16年11月22日 在中国日高臨時代理大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

南京政府に対し防共協定参加を希望する旨独  
伊兩國とともに申入れについて

南 京 11月22日後発  
本 省 11月22日夜着

第八二一號(至急、館長符號扱)  
往電第八〇七號ニ關シ

獨伊兩國政府ヨリノ訓令接到ヲ待チ當地ニ於テ打合ノ上ニ

十二日獨代理大使及伊書記官同道外交部ヲ往訪シ本官ヨリ防共協定延長議定書調印ノ次第竝ニ國民政府ノ參加ヲ勸誘スル旨述ヘ獨伊代表モ夫々政府ノ訓令ニ依リ同様希望スル旨答ヘタリ參加通告電報ハ當地獨逸大使館ヲ通シ二十四日夕刻迄ニ發送セラルル筈

尙支那側ニ於テハ外交部長ノ聲明ヲ發シタキ意嚮ナルニ付發表ノ時間至急御回示相成ル様致度シ  
二十七日汪主席主催ニテ日、獨、伊、西(二十六日新公使信任狀捧呈ノ豫定)ノ代表者ヲ晚餐ニ招待スル筈

628 昭和16年11月23日 在中国日高臨時代理大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

南京政府の防共協定参加日時について

南 京 11月23日後発  
本 省 11月23日夜着

第八二二號(館長符號扱、大至急)

往電第八二一號ニ關シ

一、防共協定ニ對スル國民政府參加ノ次第ハ效力延長議定書調印ノ件ト同時ニ發表サルルモノト解シ支那側ニ於テモ

其ノ心組ミニテ準備シ居レリ

二、伯林トノ時差ニ鑑ミ東京ニ於ケル右發表ハ二十五日夕刻ノコトト推察シ當地ニ於テハ二十六日朝刊（上海ヲ含ム）

ニ掲載シ得ル様二十五日中ニ發表スル積リナリ

三、國民政府ハ參加ノ趣旨ヲ外交部長談話トシテ聲明スル豫定ニテ右ハ本邦ニ於ケル本件發表（遅クトモ二十六日朝刊）ニ間ニ合フ様早目ニ同盟ヲシテ打電セシムヘシ

四、本邦政府側ノ聲明モ可成當地及上海二十六日朝刊ニ支那側發表ト合セテ掲載セシメタキニ付日本側聲明ハ可成早目ニ（遅クモ二十五日夜九時頃迄ニ）當地及上海ニ着電スル様同盟ヲシテ「キヤリー」セシメラレタシ

以上各項ニ付別段ノ貴見アラハ大至急回電アリタク特ニ當地ニ於ケル發表ノ時刻ニ關シテハ支、獨、伊、各方面トモ當方ヨリノ指示ヲ待チ居ル次第ニ付折返シ御回電ヲ請フ

編 注 昭和十六年十一月二十五日、日独伊などが参加する防

共協定の有効期間を五年間延長する議定書がベルリンにて調印され、南京国民政府は同日付で同議定書に参加した。

~~~~~